

英文法超基礎73～120（講義編）
～高校レベル完成～

はじめに

テキストのご購入、ありがとうございます。

このテキストは、「**英文法超基礎**」というシリーズで、**中学レベルから大学受験レベルまでの必要な英文法を一気に網羅的にまとめています**。しかも、**すべて解説授業付き**です。

分厚い文法書何冊分もの内容をまとめているので、これを仕上げれば、中学レベルであれば、高校入試に必要な英文法、高校レベルであれば、大学受験に必要な英文法はすべて対応できます！もちろん、英検対策やTOEIC対策にも有効です。

一応、中学生の方にも使っていただけるように、中学レベルと高校レベルに分けていますが、そこまでこだわりすぎる必要はありません。英語が苦手な方は大概、中学レベルからつまづいていますので、素直に中学レベルからまずはやってもらえればと思います。

使い方ですが、**初学者や英語が苦手な方は、講義編からやっていてください**。穴埋め形式になっていますので、授業を見ながらオレンジペン等で書き込んでいってもらえればと思います。

基本的には、**講義編で「講義を見る」→「演習編で問題を解く」という流れ**で取り組んでください。中学レベル編は、最初は取り組みやすい問題にしていますし、単語レベルも徐々に上がっていく構成にしていますので、（最初は語注をつけています）このテキストに出てくる単語を覚えるだけでも、入試で戦うための十分な語彙力は身に付きますよ。

順番通りにやってもらえれば、着実に力がつくように作っています！

高校レベル編からは、入試問題が出てきますので、難しさを感じるようであれば、講義編を先に一気に見ていくのもアリです。ただ、**解説動画をすべてつけていますので、苦手な方でもチャレンジできる構成**にはしています。

ある程度、**英語が得意な方は、いきなり演習編をやっていくのもアリ**です。演習編で、先に問題を解いて、解けなかった項目、わからなかった項目を講義編で確認する、というやり方です。このやり方だと、苦手な単元がピンポイント的に潰せるので、非常に効率的かなと思います。

また、**分野別に一気に潰していくのもいいですね**。目次のところに、関係詞①、不定詞②などと番号を振っていますので、それを参考に苦手な単元をタテに潰していきましょう。動画の方は、単元別に再生リストを作っていますので、そちらから見ていただくとスムーズに勉強を進めることができますと思います。

復習に関してですが、講義編の方は、赤シートで隠して、口頭で言えるかをチェックしていきましょう。この際、**即答できるかどうか**が合格ラインです。少しでも詰まったりしたら、もう一回、読み直して、即答できるようになるまで繰り返していきましょう。

ただ、**中学レベルの最初の段階、アルファベットやbe動詞の使い方などの超基本的なところを勉強する段階の方は**、手でどんどん書いていって、体に染み込ませるように復習していくと効果的です！最初が肝心ですからね。

演習編の方も、同じく赤シートで隠してやっていくんですが、**答えをただただ言うという形にしないようにしてください。なぜ、その答えになるのか、を自分で説明できるか、**これがめちゃくちゃ大事です。それが言えなかったら、僕が動画内で言っているのもう一度動画を確認して、再度チャレンジしてください。最後の英作問題は、文章を再現できたらOKです！

このテキストはすべて手書きで書いていますので、もしかしたらスペルミスや誤植等があるかもしれません。何かあれば、コメント欄等で言っていただけると非常に助かりますので、よろしくお願いいたします。

少しでも、このテキストが、みなさんの英語の勉強の助けになれば、と願っています。

S塾チャンネルのりょーたこと、S塾代表 佐伯涼太

目次

73～76：時制①～④

77：受動態④

78～81：助動詞⑧～⑪

82～84：仮定法②～④

85～87：不定詞④～⑥

88：動名詞③

89～91：分詞②～④

92～95：比較⑤～⑧

96～100：関係詞③～⑦

101～104：代名詞⑦～⑩

105～109：接続詞⑥～⑩

110～113：前置詞⑥～⑨

114：主語と動詞の一致

115～117：疑問文と語順①～③

118～119：否定①～②

120：省略・強調

↓ 英文法超基礎再生リスト ↓



<英文法超基礎⑦③> Lv.★★☆☆☆ 時制①

① 現在形の用法

現在形は、「今この瞬間」という「現在」ではない!

→ 現在形 = 「1.」形と考える!

goやeatのような動作を表す動詞の場合は、「2.

」という習慣を表し、

liveやhaveのような状態を表す動詞の場合は、「3.

」という状態を表す。

I go to school at eight. 「私は(いつも)8時に学校に行っている」

I live in Osaka. 「私は(現在)大阪に住んでいる」

この延長で当たり前的事实や不変の真理も(4.)で表す!

The earth is round. 「地球は丸い」

② 現在進行形の基本的な用法 ← 進行形についてはL13で!

現在進行形が表すのは「5.」という動作の途中である!

She is watching TV. 「彼女はテレビを見ている(最中だ)」

(イメージ!)

見始め

watch

watching : 見ている最中

見終わり

watched

: 見終わった後の状態
(過去分詞)

③ 進行形にできない動詞

進行形は「6.」を表すので、「変わらない状態」が続くモノに関

しては、進行形にできない! → (7.)が無ければ進行形にできない!

I know him. 「私は彼を知っている」←「知っている途中」とはならない...

<基本的に進行形にできない動詞>

① 状態を表す動詞

(8.)「～である」/(9.)「～を持っている」/(10.)「～を持っている」

(11.)「～に似ている」/(12.)「Aに属している」など

② 知覚・感覚系の動詞

(13.)・(14.)・(15.)「の味がする」・(16.)「のにおいがする」

(17.)・(18.)・(19.)・(20.)「が好きである」

③ 感情・認識・思考などを表す動詞

know/(17.)/(18.)/(19.)/(20.)など

「を理解している」

「を信じている」

「と思う」

「が好きである」

4 進行形にできない動詞の例外

He **resemble** his father. 「彼はお父さんに似ている」

→ resemble は「似ている状態がずっと続いている」ことを表すので、普通は進行形にできない。



He **is resembling** his father day by day. 「彼は日に日にお父さんに似ている」

→ 「day by day: 日に日に」が入ることで「変化の途中」を示せるので、進行形にできる!

I **think** he is honest. 「私は彼は正直者だと思う」←「思っている」に途中はない!

I **am thinking** about it. 「そのことについて考えているところだ」←「考え中」を表す!

※ have は「21.」 「22.」の意味では進行形にできる!

(O) I'm **having** lunch. 「昼食を食べているところだ」

(O) I'm **having** a good time. 「楽しい時を過ごしているよ」

(X) I'm **having** a car. 「車を持っている」

5 知覚動詞が進行形になる場合

知覚動詞とは「無意識的に」23.

「イメージ」←「途中」がないので

知 see: 「24.」 (X) I'm **seeing** him over there.

進行形 X!

watch: 「(動いているもの)を見る」 (O) I'm **watching** TV.

look at: 「(何か)を意識的に見る」 (O) He is **looking at** her.

知 hear: 「25.」 vs listen to: 「(意識的に)聞く」

(X) I'm **hearing** something. (O) I'm **listening to** him.

知 smell: 「26.」 と「27.」

This **smells** sweet. 「甘いにおいがする」←「自然」と匂いが入ってくるイメージ

I'm **smelling** the meat. 「肉のにおいを嗅いでいるの」←「意識的に」匂っている

知 taste: 「28.」 と「29.」

This tea **tastes** good. 「このお茶、おいしいね」←「自然」に味を感じている

I'm **tasting** the soup. 「スープの味見をしているところだ」←「意識的に」味をみる

6 「一時的な状態」を表す場合

(30.)の形で一時的な状態を表す!

You **are being** very quiet today. 「(いつもうるさいのに)今日はやけに静かだ」

→ 状態動詞を進行形にすると、「31.」を表せる!

<英文法超基礎⑦④> Lv.★★☆☆☆ 時制②

① 過去形

過去形は「1. 」あ の とき「2. 」を表す!

→「現在からキョリがある」イメージ!

- I **taught** English in this school five years ago.
「私は5年前この学校で英語を**教えていた**」←過去の習慣的な動作を表す。
- I **was** in Tokyo for three years. 「私は(かつて)3年間東京にいた」
- World war II **broke** out in 1939. 「第2次世界大戦は1939年に**勃発した**」
→ 歴史的事実を表す。
- I **saw** him yesterday. 「私は昨日彼に**会った**」←過去の一時的な行為を表す。

② 過去進行形

① 過去のある時点での動作の(3.)を示す!

↳ (4.)や(5.)がよくくる!

When he called me, I **was reading** the book.

「彼が私に電話したとき、私は本を**読んでいた**(**読んでいる最中だった**)」

While I **was cooking**, I burned myself. 「料理をしていたときにやけどした」

★ ^{ド라운}drown について

(X) A little child **drowned** in the river. 「小さな子どもが川で**溺れた**」

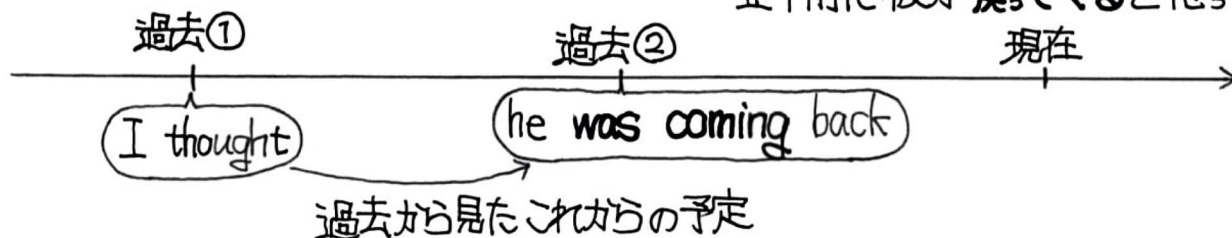
→ drown は「6. 」という意味の動作動詞! なので「溺れる」と言いたければ、「**溺れ死につつある最中**」と考えて、(7.)にする!

(O) A little child **was drowning** in the river.

② 過去のある時点から見た未来を表す

I thought he **was coming** back before noon.

「正午前に彼が**戻てく**ると思っていた」



③ 未来を表す表現

英語の動詞には**未来形はなく**、willや be going to Vなどを使って未来を表す!

① 現在形 → 「8. 」形 → 「9. 」に使われる。

The train **leaves** here at 7:17. 「その電車は7時17分到这里**出る**」
→ 時刻表のように「いつも**そうしてる**」ものなので、**現在形**を使う。

② 現在進行形 → 「10. 」 ← **確定的な未来を表す!**

She **is coming** at seven o'clock. 「彼女は7時に**来る**」
→ 「もう彼女が**向かって来てる**」イメージ

(11.)も元々一種の進行形で、あることに「12. 」

を表し、「13. 」という「**確定してる未来**」を表す!

I'm going to visit my uncle this winter. 「この冬におじさんを**訪ねる予定**だ」

It is going to be sunny. 「**晴れてくるだろう**」 ← 気象状況から判断するイジ

③ will → 「14. 」を表す! (← 助動詞は基本的に全部そう!)

[A] 「よしやろう」という**意志決定**を表す「15. 」

I **will see** her tomorrow. 「(よし)明日彼女に**会いに行こう**」

[B] 「16. 」という**判断・予想**を表す

I hope you **will pass** the exam this year. 「今年**合格する**といいね」

④ その他の表現

(17.) = (18.)

「19. 」

The train **was about to leave**. 「電車は**まさに出る**ところだった」

④ 未来進行形 ← will + be + Ving

[1] 未来のある時点での動作の「20. 」 → 「21. 」

We **will be leaving** here at this time tomorrow. 「明日の今ごろ、ここを**出発してる**だろう」

[2] 未来のある時点での予定 → 「22. 」

I **will be seeing** her tomorrow. 「明日、彼女に**会うこと**になっている」

<英文法超基礎⑦⑤> L.v.★★☆☆☆ 時制③

① 現在完了の基本用法 ← 復習(L50~L52)

現在完了は「過去のある時点から現在へのつながり」を示し、(1.)
を表す。「have・has + Vp.p.」で表され、Vp.p.は「2. 」を示す
ので、「今、OOを終えた状態を持っているよ」というニュアンスになる!!

① 動作動詞 (run・eatなど) の現在完了 → 「3. 」(完了)

I have already read the book. 「その本を既に読んでしまった」

→ 「読んだ状態を今、haveしてるよー」を表している!

I read the book. ← 「今ではなく、過去にそれをやった」という事実を述べている。

② ①の延長で → 「4. 」(経験)

I have read the book twice. 「その本を2回読んだことがある」

→ 「読んだ状態を今2回haveしてる」を表している!

③ 状態動詞 (liveやknowなど) の現在完了 → 「5. 」(継続)

I have lived in Kyoto for two years. 「京都に住んで2年になる」

→ 「2年前から今まで、住んだ状態をずっとhaveしてる」を表している!

< have gone to と have been to >

① have gone to ~ : 「6. 」(完了)

She has gone to New York. 「彼女はニューヨークへ行ってしまった」

→ 「行った後の状態をhaveしてる → 今はもういない」ということを表す!

② have been to ~ : 「7. 」 「8. 」

He has been to Hokkaido twice. 「彼は2回北海道に行ったことがある」

I've been to the post office. 「郵便局に行ってきたところだ」

< 現在完了ではなく過去時制で使う表現 >

(9.) 「～前」, (10.) 「昨日」, (11.) 「この間の、昨へ」

(12.) 「その時に」, (13.) 「いつ～か?」

(14.) 「たった今」 (= a moment ago)

→ 「15. 」 (= right now) の意味の場合は、現在進行形とセット!

He is sleeping just now. 「彼はちょうど今、眠っているところだ」

② 現在完了進行形

進行形を現在完了にすると、「過去のある時点から、今まで、ずっと~している最中の状態を have してる」となり、その動作が今まで継続していることを表す。

→ (16.) ≡ (17.)

We have known each other since 2005. 「私たちは2005年から
→ 「know した状態をずっと have してる」 ずっとお互いを知っている」

They have been playing tennis for two hours. 「彼らは2時間ずっと
→ 「2時間前から今まで、テニスをしている最中の状態を have してる」 テニスをしている」

※ 動作動詞でも、study, learn, work, stay, teach, practice など、その意味自体に (18.) があって、特に長い期間にわたって継続的に繰り返される場合は、for ~ や since ~ を伴って、現在完了形が使われることもある。

I have studied English for five years. 「これまで英語を5年間学んできた」
I have been studying English for five years. 「これまで英語を5年間学んでいる」

→ 上の文は「これからも勉強するのか、わからないニュアンスで、
下の文は「今も勉強している最中で、これからも続ける」というニュアンス!

③ 現在完了の重要表現

< ~してからX年になる >

- ① He died three years ago. 「彼は3年前に亡くなった」
- ② It has been [is] three years since he died. 「彼が亡くなって3年経つ」
- ③ Three years have passed since he died.
- ④ He has been dead for three years.

(19.) : 「Sが~してから
= (20.) X年になる」
= (21.)

「22. 」 ← 今まで経験した回数を表す
This is the first time we have visited Canada. 「私たちがカナダを訪れるのは今回が初めてだ」

<英文法超基礎⑦⑥> Lv. ★★☆☆☆ 時制④

① 過去完了の基本用法

過去完了形は (1.) で表し、現在完了形が常に「今」までにとつた。たか、が焦点だったのに対し、「過去のある時点」でとつた。たか、を問題にする。

→ 「2. 」が過去完了の考え方の基本!

I had already gone to bed when he called me. (完了)
「彼が電話をかけてきたときには既に寝てしまっていた」

I had been to Hawaii twice before I visited it last year.
「私は昨年に行つたときにはもうすでに2回ハワイに行つたことがあった」(経験)
or whenとか beforeとか afterとか...

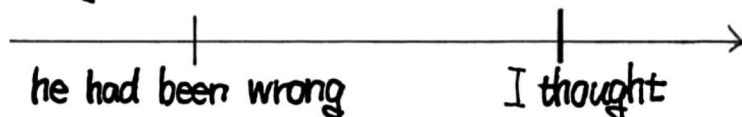
☆ 過去完了は (3.) の表現がセツト!

I had lived in Osaka for thirty years before I moved to Tokyo.
「東京に引越す前には(すでに)大阪に30年間住んでいた」(継続)

② 過去完了の用法 ~ 大過去 ~

過去完了形には、2つの過去の出来事の時間差を示す (4.) という用法がある。

I thought that he had been (×was) wrong. 「私は彼が間違っていたと思った」



→ 「私が思ったときには、もう彼は間違っていた」ということ!

I lost my watch that my father had given it to me the day before.

「父が前の日にくれた時計をなくしてしまった」←「lostしたときにはもうhad givenしていた」

※ 前から順番に出来事を述べる場合、(5.) を並べる!

My father gave a watch to me yesterday, but I lost it.

Q 「私は子どもの頃、3年間アメリカに住んでいた」は過去完了形を使うのか?

I had lived in America for three years when I was a child.

→ 「子どもの頃」には「6. 」があり、「~したときには、すでに..だった」の過去完了に合わない! (←過去の基準点が必要!)

(O) I lived in America for three years when I was a child.

3 未来完了

未来完了形は (7.

)で表し、未来のある時点において、

「8.

」ということを示す表現!

I will have arrived in Canada by this time tomorrow.

「明日の今頃は、もうカナダに到着しているだろうなあ」(完了)

I will have been to Paris five times after this next trip.

「次回のこの旅行を終えたら、私はパリに5回行ったことになる(だろう)」(経験)

We will have lived in this city for ten years next week.

「来週で私たちはこの町に10年住んでいることになる(だろう)」(継続)

<untilとby>

未来完了には「9.

」「10.

」という意味を表す「by+時、

がよくセットで出てくる! 同じく、「～まで」を表す until との区別が必要となる!

She will be here until 10:00. 「彼女は10時までここにいるだろう」

→ 10時まで「彼女がいる」状態が続く ← until は「その時点まで続く」ことを表す

She will come here by 10:00. 「彼女は10時までにここへ来るだろう」

→ 10時にはすでに、彼女はもう来てるという状態が発生している

↑「by+時」は「それまでにはすでに」を表すので、未来完了と相性が良い!

4 注意すべき時制の用法

I will call you (after I arrive). 「到着してから、あなたに電話します」

→ 時や条件を表す (11.)内では、未来のことでも現在形で表す!
(L67)

<時や条件を表す接続詞>

(12.)「～するとき」/ (13.)「～の前に」/ (14.)「～の後」

(15.)「～するとすぐに」/ (16.)「～まで」

(17.)「～するときまでには」

(18.)「もし～なら」/ (19.)「～しない限り」

☆ when と if の見分け 「名詞節」の when 「20. , if 「21.

Tell me when he will come. <when は名詞節を作っているので will オッケー!
V O₁ O₂ < if は名詞節を作っているので will オッケー!

I don't know < if it will rain tomorrow > 「明日雨が降るかどうか分からない」

<英文法超基礎⑦⑦> Lv.★★★★☆ 受動態④(L47~49)

① 進行形・完了形の受動態

(1.)で「2. 」という

進行形の受動態を表す。

It is being fixed now. 「それは今、修理中だ」

(3.)で完了形の受動態を表し、完了・
経験・継続の3つの意味は変わらない。

That building has been used as a hospital since 2003.

「あの建物は2003年から病院として使われています」

② 群動詞の受動態 Part 2

第49構③で群動詞の受動態について解説したが、もう1つ重要用法がある！

(4.): 「5. 」

You must take ^{muchやnoなどもつ} good care of your health. 「健康には十分注意すべし」
↓ 2通りの受動態ができる！

① take good care of を1つの他動詞と考えて、(6.)をSにする

Your health must be taken good care of (by you).

② takeのOを(7.)と考えて、7をSにする

Good care must be taken of your health.

他にも...

(8.): 「9. 」

(10.): 「11. 」

(12.): 「13. 」

も同様に2通りの(受)が可！

③ 日本語では能動、英語では受動態になる表現

He is married. 「彼は結婚している」 be married: 「14. 」

(15.): 「16. 」

(17.): 「18. 」

4 be known ~ 系

- (19.) : 「20. 」
(21.) : 「22. 」
(23.) : 「24. 」
(25.) : 「26. 」

A man is known by the company he keeps. ← この形がよく出る!
「人は付き合っている仲間によって判断される」→「付き合う仲間を見れば、
その人の人柄がわかる」

5 その他の注意すべき受動態

① make O + V (原形): 「27. 」の受動態→ (28.)

They made Tom work. → Tom was made to work (by them).
「彼らはトムに働かせた」 「トムは働かされた」

② see O + V (原形): 「29. 」の受動態→ (30.)

Someone saw Tom go there. → Tom was seen to go there.
「誰かがトムがそこに行くのを見た」 「トムはそこに行くところを見られた」

他にも、(31.)・(32.)・(33.)・(34.)も同じ用法!

→ Vの部分が(35.)の場合はそのまま変わらない!

I heard him singing the song → He was heard singing the song.
「私は彼が歌っているのを聞いた」 「彼は歌っているところを聞かれた」

③ say, believe, think 系 + that の受動態

They say that she is shy. 「彼らは彼女が恥ずかしがりやだと言う」

→ <That she is shy> is said (by them).

→ (36.) she is shy. ← It is said that S'V'

→ (37.) shy. ← S is said to V~

④ (38.) : 「Vされる・された」← 動作・変化を強調する

He got hurt in the game. 「彼はその試合でけがをした」

※ ㊦ be hurt / injured / wounded : 「39. 」

<英文法超基礎⑦⑧> Lv.★★★★☆☆ 助動詞⑧(L14~L20)

① そもそも助動詞とは？

助動詞は話し手の「1. _____」を表す！&助動詞には大きく分けて2つの用法がある。それは「義務の用法」と「推量の用法」である。

義務の用法		推量の用法	
will	「2. _____」	「8. _____」	
can	「3. _____」 「4. _____」	「9. _____」	
may	「5. _____」	「10. _____」	
must	「6. _____」	「11. _____」	
should	「7. _____」	「12. _____」	

② 助動詞の過去形の用法

① 助動詞の過去形は、「推量の用法」の場合、基本的に過去を意味しない！

→ 推量の「13. _____」をさらに弱めたいときに使う！

will に対する (14. _____), can に対する (15. _____), may に対する (16. _____) は「ひょっとしたら」というニュアンスを表したいときに使われる。

He might have coffee outside. 「外で(ひょっとすると)コーヒーを飲んでるかも」

I could be wrong. 「私が(ひょっとしたら)まちがっている可能性もある」

It would take about an hour. 「1時間ほどかかるだろう」

★「確信度」の順位(左から右へ「確信度」が下がる)

must → will → (17. _____) → should → can → may → (18. _____) → (19. _____)

② 依頼: (20. _____) な表現になる! (過去を表さない!)

Could you lend me your pen? 「あなたのペンを貸していただけませんか」

Would you do me a favor? 「お願いを聞いてもらってもよいでしょうか」

③ 「推量の用法」なのに、助動詞の過去形が過去を表す場合

→ (21. _____) の場合

I thought he would be wrong. 「私は彼が間違っているだろうと思った」

She said we could have such accidents. 「彼女は、そのような事故にあつことがあつと言つた」

3 canの用法

① 能力: 「22.

」←「やろうと思えばできる」イメージ! Yes, we can!

< can と be able to V >

現在: 両方使用できる! 未来: (23.)を使う!

過去: 「(過去に) ~する能力が備わっていた」の場合

(24.)と(25.)の両方とも使える!

「実際にやってみて、できた」の場合、(26.)を使う!

② 許可: 「27.

」 Can I ~? : 「28.

You can use this pen. 「このペンを使ってもいいよ」←フランクな感じ!

You cannot use this pen. 「このペンを使ってはいけません」←そこまでキリくない

③ 依頼: Can you ~? で 「29.

④ 可能性・推量: 「30.

⊖ 「31.

」 They cannot be hungry. 「彼らが空腹のはずがない」

⊕ 「32.

」 Can this news be true? 「この知らせはほんとに本当なのかな」

4 mayの用法

① 許可: 「33.

」←「上から目線」のイメージ! 上下関係を表したくないときはcanを使う

② 可能性・推量: 「34.

」←確信度は50%

③ 祈願: May S + 原形V ~! で 「35.

5 must と have to V

① 強制・命令: 「36.

↑ 主語がyouのときは、「相手に強く圧力をかける」、Iやweのときは「強い意志」、sheやtheyなどのときは、「(その人たちが)抱えている義務」を表す!

(37.) [= 38.] は客観的なニュアンス!

You have to study. ← (成績が下がってきてるから) 机たいな「やらなきゃ不行き」感じ

否定文 must not V: 「39.

」←禁止を表す!

don't [doesn't/didn't] have to V: 「40.

② 断定に近い推量: 「41.

」←基本肯定文でのみ使う

→ 反対の意味の「~のはずがない」は(42.

)を使う!

☆ have only to V: 「43.

<英文法超基礎⑦> L.v. ★★☆☆☆ 助動詞⑨

① will と would の用法

① 意志[意志未来]: 「1.

」← 心が「やる方向に」決まるイメージ!

I'll call you later. 「あとで電話するよ」← 主語が I のときは、話し手本人の意志

We will take a break. 「休憩に入りますよ」← 主語が we のときは、「みんなで〜しよう」となる

"The phone's ringing." I'll get it. 「電話が鳴ってる」「私がとります」

→ 発話時点での意志を表す!

② 予想[単純未来]: 「2.

」← 心が「〇〇だろう」と決まるイメージ!

It will be sunny tomorrow. 「明日は晴れるだろう」

- ・ 話し手の (3.) の推量も表す! ← 確信度は **must** の次に高い!

"Who's knocking?" — That'll be Tom. 「誰がノックしているんだろう?」「トムだろう」

- ・ 断定的な言い方を避け、(4.) を出す効果もある!

"How much do I owe you?" 「おいくらですか?」

"That'll be 200 dollars in all." 「全部で200ドルになります」

③ 強い意志・拒絶: 「5.

」

He will have his own way. 「彼は自分の思いどおりにしようとする」

The door won't open. 「ドアがどうしても開かない」→ 「ドア。たら開こうとしない」

↑ 無生物が S のとき、ドアに意志があるかのように表現する! (← 擬人化)

She wouldn't listen. 「彼女はどうしても聞こうとしなかった」

④ 習性・性質: 「6.

」← 「常識的にこうでしょ!」と言いたいときに使う

Babies will cry. 「赤ちゃんは泣くものだ」

⑤ (疑問文で) 依頼・勧誘: 「7.

」

Would you show me your ID? 「IDを見せていただけますか」(依頼)

Will you have another cup of coffee? 「コーヒーをもう一杯どうですか」(勧誘)

→ Will you ~ ? は「親い関係」の相手に使う! would はより丁寧にするニュアンス

<時・条件を表す副詞節⇒ will は X >

意志(外出しないつもり)、予想(外出しないだろう) を表すので will オケ!

(X) If it will rain tomorrow, I will not go out.

→ 「もし雨が降るつもりなら(意志)、もおかしい」「もし雨が降るだろうなら(予想)、もおかしい」

(O) If it rains tomorrow, I will not go out. 「明日雨なら、私は外出しない」

② 過去の習慣の would と used to V

would + (9.) : 「10. 」 (11.)

→ 「あの頃～だったなあ」と懐かしんで述べるときに使われる。

I would often play here when I was a child.

「子どもの頃、よくここで遊んだものだなあ」

ポイント

① (12.)を示す表現が必要! ← 今回だと "when I was a child"

② (13.)がよくつく!

③ (14.)にしか使えない! ← (15.)と共に使えない

^{ユーストウ}used to V : 「16. 」 「17. 」

I used to go to school by train. 「以前は電車で通学していた」

There used to be a hospital here. 「かつてここには病院があった」

ポイント

① 「18. 」の意味が含まれ、特定の過去の表現は (19.)!

② (20.)も表せる! (2つ目の例文)

③ 疑問文・否定文にする場合、(21.)を使う。(あまり使われることはない)

③ should と ought to V

① 義務・忠告 : 「22. 」 「23. 」 ← must や had better より弱い

You should [ought to] get there by ten. 「10時までにそこに着くべきだ」

You should not eat too much. 「あまり食べすぎてはいけません」

= You (24.) eat too much. ought to V は should より改まったニュアンス

② 推量・当然 : 「25. 」

They should [ought to] be back soon. 「彼らはまもなく戻ってくるはずだ」

Tom should be running in the park now. 「トムは今頃公園で走っているはずだ」

↑ 動作動詞の場合、should [ought to] + be Ving と進行形を伴う。

☆ 疑問詞 + should S + V ~ ? : 「26. 」

← ought to にこの用法はない!

① の補講 ~ 5節に will を使える場合～

→ 「27. 」という「意志」を表す文の場合

If you will come back, I will tell him your situation.

「もしあなたが戻ってくるつもりなら、彼にあなたの状況を伝えておくよ」

<英文法超基礎⑧> Lv.★★★★☆☆ 助動詞⑩

① had better V

had better Vは「1. 強い忠告・命令を表す。会話では ~'d better と短縮されることが多い。」の意味となり、
You had better [You'd better] take a rest. 「休みをとらないといけない」

<had betterの否定の形>

否定: S + (2. You had better not tell him the truth. ← (X) You had not better
「彼には本当のことを話してはいけない」

※控えめに言いたい場合は (4. It would be better for you to hurry. 「急いだ方がいいですよ」)を使う。

強さの順: must > had better > should, would be better for you to V

② 助動詞の need

助動詞の need は (5.)では用いられない! ← 入試に出るのはほとんど否定文!

• (6.) : 「7. = (8.)

You need not worry. 「心配しなくていいよ」
= You don't have [need] to worry.

• (9.) : 「10. = (11.)

Need he come? 「彼は来る必要があるのか?」
= Does he have [need] to come?

肯定文 (~する必要がある) で使う場合は (12.)で表す!

③ 助動詞の dare

dare 「13. 」は動詞としても用いられるが、疑問文・否定文では助動詞として用いることもできる。次のような形で使われる。

(14.) : 「15. 」 ← いらだちを表す
(16.) : 「17. 」
(18.) : 「19. 」

4 過去のことについて推量する表現

「過去の事柄」の推量を表すには、後ろに (20.)をつける。

• may / might have Vp.p. : 「21.

He may have missed the train. 「彼は電車に乗り遅れたのかもしれない」

I might have caught cold. 「(ひょっとすると)風邪をひいたのかもしれない」

→ mayと比べて、かなり自信のない推量を表す。

• could have Vp.p. : 「22.

I could have been wrong. 「ひょっとしたら、私が間違っていたかもしれない」

→ may・mightよりも確信の度合いが低く、起こり得る可能性への控えめな判断を表す。このケースでは canは用いられない!

• must have Vp.p. : 「23.

He must have been at the library at that time.

「彼はそのとき、(絶対)図書館にいたに違いない」

• can't / couldn't have Vp.p. : 「24.

She can't [couldn't] have failed the exam. 「彼が試験に落ちたはずがない」

→ couldを使うと、弱い表現になるので can'tを使うことが多い

5 過去のことに対する非難・後悔を表す表現

< should have Vp.p. の2つの用法 >

① should [ought to] have Vp.p. : 「25.

I should [ought to] have studied harder. 「もっと勉強すべきだった」

→ 「やるべきだったのに、実際にはやれていない」という後悔を表す

should not [ought not to] have Vp.p. : 「26.

You should not [ought not to] have done it. 「それをするべきではなかった」

→ 「やるべきではなかったのに、実際にやってしまった」という後悔を表す

☆ S should have known better than to V : 「27.

② should [ought to] have Vp.p. : 「28.

She should [ought to] have returned by now. 「今ごろはもう彼女は戻っているはずだ」

→ この用法は否定形はない & by now 「今ごろはもう」とよくセットで出る!

<英文法超基礎⑧> Lv.★★★★☆☆ 助動詞⑪

① that節中のshould①

要求・勧告・提案など「人に何かをさせたい」系の動詞の後ろにthat節が来的时候、イギリス英語では一般に (1.)という形をとり、アメリカ英語では (2.)という形をとる! (←この形の方がよく出る!)

I suggested that he should see a doctor. (英式) 「私は彼に医者に行くよう勧めた」
I suggested that he see a doctor. (米式)

<that節中にshouldを用いる「提案・要求」系の動詞>

- (3.)・(4.): 「提案する」/(5.): 「勧める」
(6.)・(7.): 「要求する」/(8.): 「命令する」
(9.): 「強く要求する・主張する」 など

② that節中のshould②

「要求」や「勧告」の意味を持つ形容詞が、(10.)と形式主語構文の形でくる場合、①と同様に、that節内は... (11.) or (12.)の形になる!

It is necessary that she (should) do it. 「彼女がそれをするには必要だ」

<that節中にshouldを用いる「必要・要求」系の形容詞>

- (13.): 「必要な」/(14.): 「必要不可欠な」
(15.): 「重要な」/(16.): 「望ましい」 など

③ that節中のshould③

「It is ㊦ that S should 原形V」の形で「17. 」の意味となる。「18. 」という訳がよくつく。

It is surprising that he should say so. 「彼がそんなことを言うなんて驚きた」

→ このshouldはthat以下の内容を「現実として受け入れられない」という気持ちを表す!

<that節中にshouldを用いる「当然・感情」系の形容詞>

- (19.): 「驚くべき」/(20.): 「当然だ」 など

4 助動詞を使った重要表現

① (21.) : 「22. 」 「23. 」

He may well get angry. 「彼が怒るのももともとだ」

It may well rain today. 「多分、今日は雨が降るだろう」

② (24.) : 「25. 」

You might as well go home. 「家に帰った方がいいよ」

③ (26.) : 「27. 」

You might as well throw your money away as lend it to him.

「彼にお金を貸すくらいなら、捨てた方がまだ」

④ (28.) : 「29. 」

= (30.) / (31.)

⑤ (32.) : 「33. 」

You cannot be too careful. 「いくら注意してもしすぎることはない」

↑いくら注意しても足りないくらいだ! 的な意味

⑥ (34.) : 「35. 」

→ (36.) : 「37. 」

「← want to Vより丁寧な表現」

⑦ (38.) : 「39. 」

I would rather stay at home than go out in the rain.

「雨の中を外出するよりむしろ家にいたい」

★ would rather Vの否定は (40.) となる!

I would rather not go to the party. 「できればパーティーには行きたい」

5 助動詞のその他のポイント

・ (41.) : 「42. 」

「← 実際はした」

※ didn't have to V : 「43. 」

「← 実際した、かどうかはわからない」

・ (44.) : 「45. 」

<英文法超基礎⑧2> Lv.★★★★☆☆ 仮定法②(L72)

1 仮定法過去完了

仮定法過去完了は「あのとき、ああだったらそうしてたのに」と(1.)の
事実と反することを表し、

(2.)

という形をとる。

(例) If I had studied harder, I could have passed the exam.

「もし(あのとき)もっと勉強していたら、私はその試験に合格できただろう」

→ if節のところで、過去実際そうではなかったことを過去完了(had + Vp.p.)で表し、

帰結節のところで「could have Vp.p.」とすることで、「あのときこうだったのに…」を表す。

2 仮定法過去と仮定法過去完了のミックス型

if節で(3.)の事実と違うことを想像し、帰結節で(4.)の状況を
述べる場合、

(5.)
「6. 」

の形で表す。

(例) If I had saved some money, I could have my own car now.

「もし(あのとき)お金を貯めていたら、私は今頃自分の車を持っているのになあ」

☆ミックス型の問題ではほぼ100%の割合で、帰結節に(7.)や

(8.)などの現在を表すことばがくる! (それが目印になる!)

※「不変の真実」を仮定する場合

If I (were / had been) you, I would have said such a thing.

→ 帰結節が仮定法過去完了になっているので、if節は「If I had been」と
考えられるが、「私はあなたではない」という「不変の真実」に反する仮定をする
場合、「あなたになれない」という真実は、特定の過去に限らず、現在を含むどの時点
でも当てはまるので、if節内の動詞は仮定法過去の(9.)で表す。

③ 未来に関する仮定

① (10.) : 「11. 」

If he should come back, I will [would] call you at once.

「万が一、彼が戻ってきたら、すぐにあなたに電話します」

※ 帰結節に will (助動詞) を使う場合もあれば would (助動詞の過去形) を使う場合もある。使い分けは **話し手がどれくらい (12.) と判断しているか**で

「まずあり得ない」という気持ちなら (13.)、「ひょっとしたらあるかも」という気持ちなら (14.) を使う。

< should 型の仮定法 >

If S' should V~, { S+ (15.) }
(16.)

★ 帰結節に (16.) を使うことができる仮定法は should 型のみ!

② (17.) : 「18. 」

If it were to rain tomorrow, he would be disappointed.

「もし仮に明日雨が降れば、彼はがっかりするだろう」

< were to 型の仮定法 >

If S' were to V~, S+ (19.) + V~.

→ 帰結節の助動詞は必ず (20.) になる!

→ (21.) で表すこともできる!

If I had time tomorrow, I could go with you.

「もし明日私に時間があるなら、あなたと一緒にいけるのになあ」

→ 「架空の未来」にも「遠回しな提案」などにも用いられる。

④ wish 系のまとめ

① ㊟ wish S' + (22.) : 「23. 」

I wish I had finished my homework yesterday. 「昨日、宿題を終わらせておけばなあ」

② ㊟ wish S' + (24.) : 「25. 」

I wish I were younger. 「もっと若ければなあ」

← 過去の事実に対する願望
← 現在の事実の反対

③ ㊟ wish S' + (26.) : 「27. 」

④ ㊟ wish S' + (28.) : 「29. 」

← 未来に対する願望

＜英文法超基礎⑧＞ Lv.★★★★☆

仮定法③

① as if [though] を使った表現

- He talks as if [though] he knew everything.
「彼はまるで何でも知っているかのように話す」

(1.): 2.

- He looks as if [though] he had seen a ghost.
「彼はまるで幽霊を見たかのような顔つきをしている。」

(3.) : 74.

- ・ The boy looks as if he is going to cry. 「少年は泣き出しそうな様子である。」
→ 事実と異なることについての例えではなく、**実際の様子について推測する場合**
には as if の後には **直説法** を使う!
※ as if to V で「5. 」という用法もある。

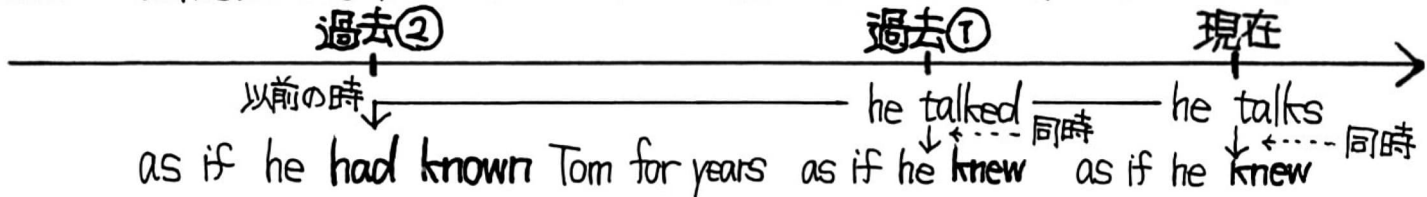
2 as ifの時制について

- ① He talks as if he knew everything. ← 仮定法過去
② He talks as if he had known Tom for years. ← 仮定法過去完了
「彼はトムを何年も知っていたかのように話す」

① He talks (直説法の節)と as if he knew~ (仮定法の節)のできごとが (6.)に起きているなら, as ifの節のVは 仮定法過去となる!

② as if の節のできごとが、直説法の節のできごと (7.) に起まっている
 のなら、as if の節の V は 仮定法過去完了となる!

talks が talked と過去形になっても同じ! (「話す」が「話した」になるだけ!)



- ③ He talks as if he were a teacher. ④ He talks as if he is a teacher.
→ ③は were という (8.) が使われているので、「彼は先生ではない」が「先生みたいに話す」というニュアンスで、④は is を用いた直説法の文なので、「彼が先生の可能性もある」というニュアンス!

③「～がなければ」系の表現

①(9.) : 「10.

→ 現在の事実と異なることを仮定する! (仮定法過去)

(例) If it were not for his help, our plan wouldn't be going well.
「もし彼の手助けがなければ、私たちの計画はうまくいかないだろう」

②(11.) : 「12.

→ 過去の事実と異なることを仮定する! (仮定法過去完了)

(例) If it had not been for the rain, we could have had a good time.
「もし雨が降らなかつたら、楽しい時を過ごせたのに」

☆ ①も②も (13.), (14.)に言い換えられる!

① Without his help, our plan wouldn't be going well.

② But for the rain, we could have had a good time.

④ その他の仮定法の表現

① (15.) : 「16.

May I smoke here? — I would rather you didn't.
「タバコを吸ってもいいですか」 「できれば吸わないでほしいのですが」

※ ② would rather S' + (17.) : 「18.

I'd rather you hadn't told her the truth.
「あなたが彼女に本当のことを言わなければよかったのと思う」

② (19.) : 「20. 」 ← 助動詞の過去形もくる!

(21.) : 「22.

If only you had helped her! 「あなたが彼女を助けてさえいたらなあ」

③ (23.) : 「24.

It is high time you took a bath.
「お風呂に入るのにちょうどいい時間だ」

It is about time I was leaving. 「そろそろ出発してもいい頃だ」
→ 本来なら「出発しつつある時間」なのに、
→ 「そろそろ失礼いたします」
出発していない、ことを表す。

<英文法超基礎⑧4> Lv.★★★★☆☆ 仮定法④

① 接続詞 if の省略

if 節中に were・had + Vp.p.・should が用いられる場合、「あくまで仮の話」ということを強調するために、(1.)にして条件節を作ることができる！
→ (2.)にして動詞を強調し、if はいらなくなるイメージ！

(例1) If I were in your position, I would quit.

→ Were I in your position, I would quit. 「私があなただの立場なら、辞めるだろう」

(例2) If you had been careful, the accident wouldn't have happened.

→ (3.) you been careful, the accident wouldn't have happened.
「もしあなたが注意深くしていたら、その事故は起きなかっただろう」

(例3) If it should rain tomorrow, the game will be called off.

→ (4.) it rain tomorrow, the game will be called off.
「明日万が一雨が降れば、試合は中止になるだろう」

② if 節を用いない仮定法

if 節を使わずに、主語や副詞(句)が「~なら」のニュアンスを含む場合がある！

→ (5.)が目印！

(例1) I wouldn't accept the offer. 「(私だったら)その申し出は受けないだろう」

→ wouldn't の形から 仮定法過去 と判断し、主語の I に 仮定の意味が含まれる。

(例2) I ran all the way to school ; otherwise I'd have been late.

「私は学校までずっと走った。そうしなかったら遅刻していただろう」

→ 副詞 otherwise : 「6. 」は、直説法で述べ

られた前の文を否定して、後ろに 仮定法の形 がくる！

= (7.), I'd have been late. と書き換えられる！

(例3) With your help, I could have finished it.

「あなたの助けがあれば、それを終わらせることができただろう」

= If you had helped me, ...

↙ If everyone heard...

(例4) Everyone would be surprised to hear you passed the exam.

「あなたが試験に合格したのを聞いたら、みんな驚くだろう」

3 仮定法現在とは

仮定法過去は「(今そうじゃないけど)もし今~なら」と(8.)の仮定の話をするときに動詞を(9.)にする。

仮定法過去完了は「(あのときそうじゃなかったけど)もしあのとき~なら」と(10.)の仮定の話をするときに動詞を(11.)にする。

では、仮定法現在とは何か?

→「(今はそうじゃないけど)、(12.)仮に~になったら」を表す!

(13.)の仮定の話をするときに動詞を(14.)にする。

If it rain tomorrow, the game will be canceled.

「もし明日雨なら、試合は中止になるだろう」

↑ この仮定法現在の用法は今は廃れて、ただの直説法の現在形となっている!

If it rains tomorrow, the game will be canceled.

この仮定法現在の名残が残ってるのがL⑧でやった、suggestとかrequireなどの提案・要求系のVの後につづくthat節には原形が使われる。というヤリです!

I suggested that he see a doctor.

↓ (最近ではこれも廃れてきつつあり、shouldを使う形も多い)

I suggested that he should see a doctor.

☆まとめ!

過去に対する仮定 → Vを(15.)に!

現在 " → Vを(16.)に!

未来 " → Vを(17.)に!

→ 今はほぼ使わず、(18.)に!

4 読解のための仮定法

仮定法かどうかは...

「可能性があるかどうかではなく、(19.)があったら
で判断する!」

I couldn't be better!

→「(実際により良くなるうとは思わないけど)、仮にこれ以上良くなるうとしても、
なることはできない」から訳は「20.」となる。

<英文法超基礎⑧5> Lv.★★★★☆☆ 不定詞④(53~55)

① 意味上の主語をofで表す用法

「It is ㊦ to V～」の形式主語構文で㊦の部分に kind や careless のような (1.) 形容詞 が来ると、不定詞の意味上の主語は (2.) ではなく (3.) になる! 「4. 」と訳す!

(例) It is careless of you to say such a thing.
「そんなことを言うなんてあなたは不注意だ」

<人の性質を表す形容詞>

(5.) : 「親切だ」 / (6.) : 「不注意だ」
(7.) : 「愚かな」 / (8.) : 「賢明な」
(9.) : 「礼儀正しい」 / (10.) : 「無礼な」 など

② 不定詞の副詞的用法まとめ

① 目的: 「11. 」 ← (12.) / (13.)

I started early to avoid the rush hour. でも表せる!
「ラッシュアワーを避けるために私は早く出た」

② 結果: 「14. 」 ← よく出る形を覚える!

<結果用法でよく用いる表現>

• (15.) : 「16. 」 / (19.)
• (17.) : 「18. 」 / 「20. 」
• (21.) : 「22. 」
• (23.) : 「24. 」

③ 感情の原因: 「25. 」 I'm happy to meet him. 「彼に会えてうれしい」

④ 形容詞の限定 ← あとで詳しくやります! → 「タフ構文」と言われている

This computer is easy to carry. 「このコンピュータは運びやすい」

⑤ 判断の根拠: 「26. 」

I was careless to lose my bag. 「カバンをなくすなんて私も不注意だった」
= It was careless of me to lose my bag.

⑥ 条件: 「27. 」 ← L⑧4 でやった仮定法の用法!

To hear you passed the exam, she would be surprised. 「あなたが試験に合格したのを聞けば、彼女は驚くだろう」

③ タフ構文について

形式主語構文: It is easy to carry this computer.

タフ構文: This computer is easy to carry (○).
→ (28.) になるのがポイント!

< タフ構文に使える形容詞 >

難易度系: (29.)・(30.)・(31.)・(32.)
快・不快系: (34.)/(35.):「楽しい」
(36.):「便利な・都合がいい」など
危険・安全系: (37.)・(38.)
その他: (39.):「不可能な」← (40.)は不可!

↑ ①をSにできないが、タフ構文のときだけ①をSにできる!!

(X) I am difficult to get along with him. ※ get along with A: 「Aとうまくやる」

(O) He is difficult to get along with. 「彼は付き合いにくい人だ」

タフ構文は話し手が感じる「41. 」を表す構文!

→ 人の性質・性格を表さない difficult など、その人に対する 41 を表すために使う!

☆ 仮主語構文とタフ構文の意味のちがい

(仮主語): It is difficult for me to get along with him.

(タフ): He is difficult to get along with.

仮主語 彼は「42. 」を表すので、現在形であれば「(今回に関しては)、過去形であれば(あのとき)、～な状況だ・状況だった」というニュアンスになる。

It is difficult for me to get along with him.

「(今回)彼とうまくやるのは難しい(状況だ)」

タフ構文は主語に 他ではなく、(43.)がくるので、一時的な状況の話ではなく、その人や物がもつ「44. 」を表す!

He is difficult to get along with. 「彼は付き合いにくい人だ」

→ 「彼ってこういうヤリよね」というイメージ!

＜英文法超基礎⑧＞ Lv.★★★★☆ 不定詞⑤

1 進行形・受動態の不定詞

[A]進行形の不定詞: (1.)

It seems to be raining outside now. 「今外では雨が降っているようだ」

[B]受動態の不定詞: (2.)

She wants to be loved by everyone. 「彼女はみんなに愛されたいと思う。」

②完了形の不定詞

to V は基本的に述語動詞 $[V]$ の表す時と同じ時を表すのに対し、

(3.)で表される完了形の不定詞は Vよりも(4.)を好む!

She seems to be sick. 「彼女は病気のようにだ」
V to V
← V と to V が同じ時

She seems to have been sick. 「彼女は病気だったようだ」
V「ようだ」 to have Vp.p. 「病気だった」 ← Vよりto Vは時が前!

※ 完了形の受動態の不定詞は (5.) となる。

He seems to have been caught in a traffic jam.
「彼は交通渋滞につかまったようだ」

$\langle S \text{ is said to } V. \Leftrightarrow \text{It is said that } \sim \text{タリ } \rangle$

① S(6.) V \Leftrightarrow It is said that ~ : 「～と言われている」

② S (7.) $V \rightleftharpoons$ It seems [appears] that ~: 「～ようだ」

③ S (8.) $V \Leftrightarrow$ It is thought that \sim : 「 \sim と考えられている」

④ S (9.) V \leftrightarrow It is believed that ~ : '~と信じている'

It is said that he is in Paris. ⇔ He is said to be in Paris.
 現在 ← 同時 → 現在 「彼はパリにいると言われている。」

It is said that he was / has been in Paris. ⇔ He is said to have been.
 現在 ← 時のズレ → 過去 現在完了 「彼は(以前/今まで)パリにいたと言われている」

It was said that he was in Paris. ⇔ He was said to be in Paris.
過去 ← 同時 → 過去
「彼は(パリ)にいると言われていた」

It was said that he had been in Paris. ⇔ He was said to have been in Paris.
過去 ← 時のズレ → 過去完了 「彼はパリにいたと言われていた」

③ 代不定詞

How about coming over to my place on Sunday? - I'll be glad to.
「日曜日にごちへ来ませんか」 - 「ぜひうかがうよ」

→ to Vの内容が前後の関係からハッキリわかるときには、(10.)で不定詞の代用をすることがある。これを代不定詞という。

I'll be glad to. = I'll be glad to (come over to your place).

④ 程度を表す不定詞 - 不定詞の副詞用法

① (11.) : (12.) (13.)
= (14.) ← この表現では意味上の主語 (for A) は置かない。

He is old enough to vote. 「彼は投票できるくらいの年齢だ」

= He is so old as to vote.

※ enoughが名詞と一緒に使われるときは (15.) となる。

We have enough time to see the movie. 「映画を見るくらいの時間がある」

② (16.) : (17.) (18.)

He is too fat to run fast. 「彼は速く走るには太りすぎている」

= He is so fat that he cannot run fast.

→ (19.) の形に書きかえられる!

⑤ be + 形容詞 + to V の重要表現

① be likely to V : (20.)

It's likely to rain tonight. 「今夜は雨になりそうだ」

② be ready to V : (21.) (22.)

Are you ready to start now? 「出発する準備ができていますか」

③ be eager to V : (23.) (24.)

He is eager to study English. 「彼は英語を学ぶのに熱心だ」

④ be willing to V : (25.)

They are willing to help me. 「彼らは進んで私を助けてくれる」

⑤ be sure [certain] to V : (26.)

He is sure to win the team. 「彼はきっとそのチームに勝つだろう」

など

<英文法超基礎⑧7> Lv.★★★★☆☆ 不定詞⑥

① 原形不定詞 (← L④2)

たのつかない不定詞 [= 動詞の原形だけのもの] を **原形不定詞** という。以下のタイプがある。

① 使役動詞 - 「O + 原形V」で 「1. _____」

(2. _____) + O + V

His words **made** me **feel** uneasy. 「彼のことは私を不安に**させた**」

☆ 受動態にすれば (3. _____) になるが、(4. _____) は受動態にしない!

I **was made** to **feel** uneasy by his words. 「私は彼のことで不安な気持ちに**させられた**」

② 知覚動詞 - 「O + 原形V」で 「5. _____」

(6. _____) + O + V

I **heard** him **sing** a song. 「私は**彼が**歌うのを聞いた」

☆ (7. _____) + O + V の受動態は V が (8. _____) になる。

He **was heard** to **sing** a song by me. 「彼は私に**歌うのを**聞かされた」

<原形不定詞を用いた表現>

① (9. _____) : 「10. _____」

All you have to do is (to) push the button. 「あなたはそのボタンを**押すだけ**
= You (11. _____) push the button. **でよい**」

② (12. _____) : 「13. _____」

He **does nothing but** watch TV. 「彼は**テレビを見てばかり**いる」

② 独立不定詞

熟語として覚える!

副詞的用法のひとつで、文全体を修飾する。この用法を **独立不定詞** と呼ぶ。

① (14. _____) : 「15. _____」

② (16. _____) : 「17. _____」

③ (18. _____) / (19. _____)

「20. _____」

④ (21. _____) : 「22. _____」

⑤ (23. _____) : 「24. _____」 / ⑥ (25. _____) : 「26. _____」

⑦ (27. _____) : 「28. _____」

⑧ (29. _____) : 「30. _____」

⑨ (31. _____) : 「32. _____」 など

3 be to 不定詞

be動詞+to不定詞は「33.

③は少し例外
が基本的な意味!

①予定 ②運命 ③可能 ④意志 ⑤義務の5つの意味がある!

①「**確定的な予定**」←公式の行事・計画・予定などに使われる＆新聞の見出しでよく使う!

The president is to visit Japan in May. 「大統領は5月に来日する予定だ」

→ 硬い、書き言葉的な表現。政治日程などの予定に使われる。

President to visit Japan. 「大統領、来日へ。」

→ 新聞の見出しで使われる場合、be動詞と冠詞は省かれるのが普通。

②「運命」: 「34.」←必ず「35.」で使われる!

She was never to return home. 「彼女は故郷に戻ることは二度となかった」

→「故郷に帰ることはないことになっていた」→そういう運命だった

③「可能」←(36.)で使われるのがほとんどなので「37. 」を表す。

My wallet was not to be found. 「私の財布は見つからなかった。」

→ (38.)になることが多い!

☆ "be + not + to be Vp.p." を見たら、'39. 「を意味する!」と予測

④意志 ← (40.)内では使われる: 「41.

If you are to succeed, you have to work harder.

「もし成功するつもりなら、あなたはもっと努力しなければならない」

→ 説教的なニュアンスになる

⑤義務 ← 主語は必ず(42.)で、相手に「指示・命令する」イメージ!

You are to finish the report by tomorrow.

「明日までにレポートを終わらせておくように。」

2 補足

⑩ (43.) : 「44.

⑪ (45.) : 46.

⑫ (47.) : 48.

③ (49.) : 50.

<英文法超基礎⑧> Lv.★★★★☆ 動名詞③ (L56・L57)

① 動名詞の様々な形

[A] 受動態の動名詞: (1.) 2.

He left without being seen by anybody. 「彼は誰にも見られることなく出て行った」

[B] 完了形の動名詞: (3.) ← 文のVより「時が前」を示す!

I am proud of being a member of the national team.
 ー 同じ時 ー 「私は国の代表チームのメンバーであることを誇りに思う」

I am proud of having been a member of the national team.
 ー 時のズレ ー 「私は国の代表チームのメンバーであったことを誇りに思う」

[C] 完了形の受動態の動名詞: (4.)

He complained of having been assigned to Osaka branch.
 「彼は大阪支社に配置されたことに文句を言った」

② to + Ving型のイディオム

① (5.) : 6.

I'm looking forward to seeing you. 「あなたに会えるのを楽しみにしている」

② (7.) : 8.

= (9.)

I'm accustomed to using this knife. 「このナイフを使うのに慣れている」

He got used to cooking by himself. 「彼は自分で料理をするのに慣れた」

③ (10.) : 11.

My parents objected to my studying abroad. 「両親は私が留学するのに反対した」
 cf. (12.) : 13.

④ (14.) : 15.

⑤ (16.) : 17.

← 提案 勧誘

= (18.)

⑥ (19.) : 20.

⑦ (21.) : 22.

③動名詞を使った重要表現② ← L57の③のつづき

(23.) : 「24. 」 = (25.)

There is no telling what will happen. 「何が起こるかわからない」

(26.) : 「27. 」

You will have no difficulty (in) finding his house.

「あなたは彼の家を難なく見つけられるよ」 ← no, some, muchなどがよく付く

(28.) : 「29. 」

He spent two hours (in) repairing his car. 「彼は車を修理するのに
2時間かけた」

(30.) : 「31. 」

(32.) : 「33. 」

(34.) : 「35. 」

(36.) : 「37. 」

(38.) : 「39. 」

Would you mind opening the window? — Not at all.

「窓を開けていただけませんか」 — 「いいですよ」

④ worth と need

(40.) : 「41. 」

The song is worth listening to over and over again.

「その歌は何度も何度もくり返し聞く価値がある」

→ 主語 (The song) が Ving の後の 目的語 になる (ことがある)。

※ (42.) に言い換えられる!

It is worth listening to the song over and over again.

(43.) : 「44. 」

→ 主語の A が必ず Ving の (45.) となる! (受動態をイメージする!)

This shirt needs washing (). 「このシャツをきれいにする必要がある」

= This shirt (46.) . ↑ このシャツはきれいにする必要がある

③ 補足

• on + Ving : 「47. 」

• / in + Ving : 「48. 」

<英文法超基礎⑧> Lv. ★★☆☆☆ 分詞② (L58~)

① SVCのCとして用いられる分詞

[A] He kept smiling (all the time). 「彼はずっとにこにこ笑っていた」
 S V C

The man looked shocked (with the result). 「その男性は結果にショックを受けているように見えた」
 S V C

→ 主語との間に (1.) 関係が成立すれば、(2.) を、(3.) 関係が成立すれば (4.) を使う。

He was smiling. 「彼は笑っていた」 / The man was shocked. 「男性はショックを受けた」
 ↓ 感情系は④が⑤のとき、受動態となる

<後にCが必ず必要なV>

(5.) 「～のまだ」 / (6.) / (7.) 「(ずっと)～のままである」
 (8.) 「～のようだ」 / (9.) 「～の気分だ」 など

[B] She lay / watching TV. 「彼女はテレビを見ながら横になっていた」
 S V C
 → 「彼女は横になってテレビを見ていた」
He sat / surrounded (by his grandchildren). 「彼は孫に囲まれて座っていた」
 S V C

このBタイプは、後にCがなくても成り立つVで、2つの文に分けることができる!

She lay. (彼女は横たわっていた) } She lay / watching TV.
 She was watching TV. (彼女はテレビを見ていた) } S V C

<後にCがなくても成り立つV>

(10.) 「横たわる」 (← lie / lay / lain) / (11.) 「座って～する」
 (12.) 「～してやって来る」 / (13.) 「立って～する」 など

② SVOCのCとして用いられる分詞①

SVOCのCに分詞が来る場合、OとCの間が、「Oが～している」なら (14.)
 「Oが～される」なら (15.) を用いる。(理屈は同じ!)

I kept you waiting long. 「私はあなたを長く待たせた」 (You are waiting)
 S V O C

He left the machine broken. 「彼はその機械を壊れたままにした」 (The machine was broken)
 S V O C

このタイプのVは他にも (16.)、(17.) などがある!

[3] SVOCのCとして用いられる分詞②

[A] We heard him <playing the piano> (O) 「私たちは彼がピアノを弾いているのを聞いた」

I saw him arrested (on the spot) 「私は彼がその場で逮捕されるのを見た」

「seeやhearなどの(18.) + O + 分詞」で「19. のを見る・聞く・感じる」という意味になる。

＜この型で用いられる動詞＞ (20.) / (21.) / (22.) / (23.) / (24.) など

[B] (25.): 「26. (使役) 27. (被害)」

I had my room cleaned (by a maid). 「私はお手伝いさんに部屋を掃除してもらった」

I got my hand scratched by a cat. 「ネコに手をひかかれてしまった」

[4] 分詞を含む重要表現

① (28.): 「29. 」

I couldn't make myself understood in English. 「英語で自分の言っていることを理解させられなかった」→「英語が通じなかった」

② (30.): 「31. 」

I couldn't make myself heard because of the noise. 「騒音のせいで自分の声を届かせられなかった」→「騒音のせいで自分の声が届かなかった」

③ (32.): 「33. 」

I went swimming in the sea. 「私は海へ泳ぎに行った」

④ (34.): 「35. 」

There is a long line of customers waiting. 「長い列の客が待っている」
→「客の長い列ができています」

There is some money left in the safe. 「金庫にお金が残されている」
→「金庫には多少お金が残っている」

<英文法超基礎⑨> Lv.★★★★☆☆ 分詞③

①分詞構文とは

分詞構文はいわゆる分詞の「1.」で、VingやVp.p.を使って、
接続詞的な働きをする!

①(a) He always studies English. + (b) He listens to music.

→ He always studies English **listening** to music.

「彼は音楽を**聴きながら**いつも英語を勉強する」

②(a) This book is written in English. + (b) It is difficult to read it.

→ **Written** in English, this book is difficult to read.

「英語で**書かれている**ので、この本は読みにくい」

②分詞構文の作り方

(例) When he saw me, he ran away. 「彼が私を見たとき、彼は逃げた」

① (2.)

~~When~~ he saw me, he ran away.

② (3.)が同じ→ (4.) / (5.)が違う→ (6.)

~~he~~ saw me, he ran away ← 結論の方を残す!

③ (7.)! ← 受動態の場合は (8.)を省略してVp.p.

Seeing me, he ran away.

(問) Because it was sunny, I went out. 「晴れていたの、私は外出した」

→ (9.)

→ (10.) ← Sが違う分詞構文を
独立分詞構文といふ!

(問) Because the boy was praised by his father, he looked happy.

「お父さんにその少年はほめられたので、うれしそうだった」

→ (11.)

→ (12.)

☆否定の分詞構文は分詞の(13.)に not・neverを置く!

Not feeling well, I went to the hospital. 「気分が良なくて、
私は病院へ行った」

③ 分詞構文の位置

① (14.): (15.)

Having a fever, I went to bed earlier. 「熱があったのでいっしょより早く寝た」

② (16.): (17.)が入る位置

Tom, not knowing what to do, kept silent.

「トムは何をしたらいいかわからなくて、黙っていた」

③ (18.): (19.)に「カンマ+分詞」の形

He always eats breakfast, reading a paper. 「彼はいつも新聞を
読みながら朝食をとる」

④ 分詞構文の様々な訳し方

分詞構文は「時」「理由」「条件」「付帯状況」など、いろんな訳し方があるが、基本的に

Ving は「20. 」. Vp.p. は「21. 」と考えればオッケー!

Watching TV, I fell asleep. 「テレビを見ていて眠ってしまった」(時)

Left alone, the girl was sad. 「一人ぼっちにされて、女の子は悲しかった」(理由)

Used properly, this knife cuts well. 「正しく使われて、このナイフはよく切れる」
(= 正しく使えば) → (条件)

He was cooking, talking with me. 「彼は私と話して、料理を作っていた」
→ 同時に起こっていることを付帯状況といい、「22. 」と訳す。

この用法の場合、(23.)にくることが多い!

⑤ 完了形の分詞構文

分詞構文は2つのことが同時に起こっていることを表すが、分詞句の内容が
主節の「時」より(24.)であれば、(25.)で表す!

Because I lived here once, I know my way around.
カコ ←—— 時のズレ —→ 現在

→ ~~Because~~ I lived here once, I know my way around.

→ Having lived here once, I know my way around.
「かつてここに住んでいたの、私はこのあたりの道に詳しい」

☆ 否定の完了形の分詞構文は(26.)となる!

↑ neverの場合は havingの前でも後ろでもどちらでも可!

<英文法超基礎⑨①> Lv.★★★★☆☆ 分詞④

① 分詞構文を使った熟語表現

- ① (1.) : 「2. 」
- ② (3.) : 「4. 」
- ③ (5.) : 「6. 」
- ④ (7.) : 「8. 」
- Speaking of baseball, do you like the Tigers?
「野球と言えは、あなたはタイガースが好きですか」
- ⑤ (9.) : 「10. 」
- ⑥ (11.) : 「12. 」
- Considering his age, he looks young. 「年齢のわりには、彼は若く見える」
- ⑦ (13.) : 「14. 」 「15. 」
- (16.) : 「17. 」 「18. 」
- ⑧ (19.) : 「20. 」
- ⑨ (21.) : 「22. 」
- ⑩ (23.) : 「24. 」
- ⑪ (25.) } 「27. 」
(26.) }
- ⑫ (28.) : 「29. 」

※ 次のような分詞構文の変形パターンがある！

Though injured badly, he kept on playing.

「ひどくけがをしていたが、彼はプレーを続けた」
→ 意味を明確にするために、分詞句の前に接続詞を置くことがある

② 付帯状況の with

「同時に起きていること」を表す付帯状況は分詞構文で表すことができるが、
(30.)でも表すことができる!

・ He kept his car parked with the engine running.

「彼はエンジンをかけたまま車を止めておいた」

→ The engine was running. と「O+分詞」がSVの関係かつ能動→Vingに!

・ He sat in the chair with his legs crossed.

「彼は足を組んで(←足が組まれている状態で)イスに座っていた」

→ His legs was crossed と「O+分詞」がSVの関係かつ受動→Vp.p.に!

☆分詞の他に、形容詞、副詞や前置詞も来れる!

① (31.)

You mustn't speak with your mouth full. 「口が物でいっぱい状態でしゃべってはいけません」
S → V (形)

② (32.)

He studies with the radio on. 「彼はラジオをつけて勉強する」
S → V (副) (ラジオがonの状態で)

③ (33.)

She remained silent for a while with tears in her eyes. 「目に涙をためて(←涙が目にある状態で)彼女はしばらく何も言わなかった」
S → V (前置詞句)

③ 分詞構文と付帯状況の with のちがい

(a) Closing his eyes, he listened to her speech. 「彼は目を閉じて、彼女のスピーチを聞いた」

(b) With his eyes closed, he listened to her speech. 「彼は目を閉じ(たまま)彼女のスピーチを聞いた」

(a) の分詞構文は「目を閉じる」と「スピーチを聞く」という2つの動作が(34.)して起きていることを表す。(←目を閉じる→スピーチを聞く)

(b) の with his eyes closed は、「目が閉じた状態で、スピーチを聞いた」となり、2つのことが(35.)に行われていることを表す。

<英文法超基礎⑨②> Lv.★★☆☆☆ 比較⑤(L43~46)

① 原級を用いた表現(復習)

- He is as good at soccer as he is at baseball.
 → He is as good at soccer. 「彼は同じくらいサッカーが得意だ」
 ↓ 「どれくらい?」
as he is (good) at baseball 「野球同様に得意だ」
 ↓
 「彼は野球同様サッカーも得意だ」
- It is not as cold here as in Hokkaido. 「ここは北海道ほど寒くない」
 → 最初の as の代わりに (1.) を使うこともできる!
 It is not as cold here
 as (it is) in Hokkaido
 ↑ 比較対象

★ "so... as~" と "as... as~" の語順

He is as hard a worker as Ken. 「彼はケンと同じくらいがんばり屋だ」
 → 名詞を伴うと (2.) の語順になる!

② 名詞を使った倍数表現

① This lake is half as large as Lake Biwa. 「この湖は琵琶湖の半分の広さだ」
 倍数表現

→ "A... X (times) as~ as B" : 「3.

↓
 2倍: (4.) / 3倍: (5.) / 4倍: (6.) ...
 $\frac{1}{2}$ 倍: (7.) / $\frac{1}{3}$ 倍: (8.) ← $\frac{2}{3}$ 倍: (9.)
 $\frac{1}{4}$ 倍: (10.) ← $\frac{3}{4}$ 倍: (11.)

② 倍数表現は (12.) の形でも表せる!

large → (13.) / long → (14.) / many → (15.)
 high → (16.) / heavy → (17.) など

This lake is half the size of Lake Biwa.

This is two times longer than that. 「これはあれの2倍の長さがある」
 → 比較級でも表せる! この場合、「2倍」は two times となる。

3 原級を含むイディオム

A. as many... (as~)系

• (18.) : 「19. 」

Tom has as many friends as I do. 「トムは私と同数の友達がいる」

Take as much as you like. 「好きなだけ取りなさい」

• (20.) : 「21. 」 ← 「多い」を強調

• (22.) : 「23. 」
They worked like so many bees. 「彼らは(同数の)ハチのように働いた」

B. not so much 系

• (24.) : 「25. 」

= (26.)

• (27.) : 「28. 」

• (29.) : 「30. 」

• (31.) : 「32. 」

C. as ~ as... 系

• (33.) : 「34. 」

• (35.) : 「36. 」

• (37.) : 「38. 」

I had to wait as long as five hours. 「5時間も待たねばならなかった」

• (39.) : 「40. 」

• (41.) : 「42. 」 ← 距離を強調

• (43.) : 「44. 」

• (45.) : 「46. 」

• (47.) : 「48. 」

<英文法超基礎⑨③> Lv.★★★★☆☆ 比較⑥

① 比較表現の注意すべき用法

① (1.) : 「2. 」 (A < B)
= (3.) = (4.)

(例) I'm less smart than he is. 「私は彼ほど頭が良くない」
= I'm not as smart as he is. / He is more smart than I'm.

※ 文に数えられる名詞がくる場合、(5.) が使われるのが正式。

I have fewer marbles than Tom has. 「私はトムよりもおはじきの数が少ない」

② (6.) : 「7. 」
= (8.) ↑ 同一人・物の中での性質の比較

She is more pretty than beautiful. 「彼女は美しいというよりむしろかわいい」
→ pretty と beautiful という形容詞と形容詞を比べているので prettier にはしない!

③ 比較する相手が明らかなきときには、(9.) は省略される!

I had a headache this morning, but I'm much better now.
「今朝は頭が痛かったが、今は(今朝より)ずっと良くなった」

④ 他と比較するのではなく、漠然と程度が高いことを表す比較級を「絶対比較級」といふ

(例) higher education 「高等教育」, the upper class 「上流階級」 など

② ラテン比較

< than ではなく to を用いる表現 >

① (10.) : 「11. 」
↑ older/younger than ~ より堅い

② (12.) : 「13. 」

③ (14.) : 「15. 」
= (16.)

I prefer summer to winter. 「私は冬より夏の方が好む」
= I like summer better than winter.

③ the + 比較級のパターン

① (17.) : 「18.

This is the heavier of the two bags. 「2つのカバンのうち、こちらの方が重い」
↳ 2つの中では最上級は X & 「2つの中の～」と限定されているので the が付く!

② (19.) : 「21.
(20.) : 「22.

※ none the less for ~ : 「23. 」がよく出る!

I like him all the better for his kindness. 「彼は親切なのでいっそう好きになる」
I like him none the less for his faults. 「彼には欠点があるが、それでもやはり私は彼が好きだ」

☆ for の代わりに (24.) を用いると、後ろは SV ~ となる!

Tom worked all the harder because he now had a son.
「トムは息子が生まれたので、その分いっそう一生懸命働いた」

③ (25.) : 「26.

The longer I stayed there, the more I liked the place.
「そこに(長く)滞在すればするほど(ますます)その場所が好きになった」

{ I stayed there longer → The longer I stayed there
I liked the place more → The more I liked the place

④ 比較級の強調表現

• (27.) + 比較級 : 「28.

He looks much younger than he really is. 「彼は実年齢よりはるかに若く見える」

• (29.) : 「30.

I have many more books than you do. 「あなたよりもっとたくさんの本を持っている」

• (31.) : 「32.

I have much more time than before. 「以前よりずっと時間が多い」

<英文法超基礎⑨④> Lv.★★★★☆☆ 比較⑦

① not+比較級と no+比較級

(a) The baby is not bigger than this doll. 「赤ちゃんはこの人形より大きくない」

→ notは普通の否定語なので、「not+比較級+than A」は「1.

と、Aと同等かそれ以下という比較の差を表す単純な比較級となる!

(「赤ちゃん \leq 人形」)

(b) The baby is no bigger than this doll.

→ no [=2.]は比較級と一緒に使うと「3.

という強い否定になるので、

「赤ちゃんはこの人形より少しも大きくない」→「人形くらいしか大きさがない」

(「赤ちゃん = 人形」)という意味になる!

= The baby is (4.) this doll. と言いかえることができる!



「人形」は「大きくないもの [= 小さいもの]」の例で、「人形は大きくないが、赤ちゃんも同じように大きくない」というニュアンスになる。

< A is no+比較級+than B >

① (5.)! → (6.)関係に!

② (7.)なニュアンスのモノがくる!

I'm feeling no better than yesterday. 「昨日より少しも気分がよくなる!」

→ 「昨日も 良くない」が同じように「(今日も) 良くなるらない」

☆ A is no more than B

A whale is no more a fish than a horse is.

「クジラは、馬(が魚でないの)と同じように、魚ではない」



A is no more B than C is D

「8.

||

(9.

)

A whale is not a fish any more than a horse is.

2 not less... than ~ と no less... than ~

(a) She is not less beautiful than her mother.

→ 「彼女は母親より美しくないことはない」 → 「母親と同じかそれ以上に美しい」

→ 「彼女は母親にまさるとも劣らず美しい」 (彼女 \geq 母親)

★ A is not less ~ than B : 「10.

(b) She is no less beautiful than her mother.

→ 「(母親は美しいが) 彼女は母親より少しも劣らず美しい」 (彼女 = 母親)

★ A is no less ~ than B ← Bには「11. 」なニュアンス

「12.

」/「13.

< 否定形 + more · less ~ than まとめ >

① A is not more ~ than B. → (14.) 「15.

② A is no more ~ than B. → (16.) ← Bは (17.) 的
「18.

③ A is not less ~ than B. → (19.)
「20.

④ A is no less ~ than B. → (21.) ← Bは (22.) 的
「23.

3 no more than / no less than など

① no more than + 数字 : 「24. 」 = (25.)

no more than 60 kilograms (= 60kg) 「たったの60キロ」 ← 「26. 」 感じ

② no less than + 数字 : 「27. 」 = (28.)

no less than 60 kilograms (= 60kg) 「60kg も」 ← 「29. 」 感じ

③ not more than + 数字 : 「30. 」 = (31.)

not more than 60 kilograms ($\leq 60\text{kg}$) 「せいぜい60キロ」 ← 「32. 」 感じ

④ not less than + 数字 : 「33. 」 = (34.)

not less than 60 kilograms ($\geq 60\text{kg}$) 「少なくとも60キロ」 ← 「35. 」 感じ

<英文法超基礎⑨> Lv.★★☆☆☆ 比較⑧

① 比較級を用いた重要表現

① (1.) : 「2. 」

The situation is getting worse and worse. 「事態はますます悪化している。」

② (3.) : 「4. 」

He seems more or less familiar with the subject.

「彼はその問題について多少知っているように思われる。」

③ (5.) : 「6. 」

You will come to know the truth sooner or later.

「遅かれ早かれあなたは真実を知るだろう。」

④ (7.) : 「8. 」

(9.) : 「10. 」

It is difficult to understand his books, much more his lectures.

「彼の本を理解するのは難しい。まして彼の講義(を理解するの)はなおさらだ。」

I can't speak German, still less Russian.

「私はドイツ語が話せない。ましてやロシア語はなおさらできない。」

⑤ (11.) [= 12.] : 「13. 」

(14.) : 「15. 」 more than five 「5以上」 (>5)

↑厳密に表すには five or more

⑥ (16.) : 「17. 」

I know better than to trust him. 「彼を信用するほどばかではない。」

※ know better : 「18. 」

⑦ (19.) [= 20.] : 「21. 」

He no longer lives here. / He does not live here any longer.

「彼はもうここに住んでいない。」

⑧ (22.) : 「23. 」

I am less than sleepy. 「私はまったく眠くありません。」

⑨ (24.) [= 25.)

「26. 」

②最上級の用法(その他) ← 基本はL44!

① (27.) : 「28. 」

I always start with the least difficult question in exams.
「私はいつも試験では最も難しくない問題から始める」

②同一人・物の比較には最上級でも (29.) をつけない!

(a) This pond is deepest here. 「この池はここがいちばん深い」

(b) This pond is the deepest of all. 「この池はすべてのうちでいちばん深い」

③ "the+最上級" の直前に (30.) を補って 「31. 」 と訳すことがある。

The wisest man sometimes makes mistakes.

(= Even the wisest man....) 「いくら賢い人でもときにはまちがえることもある」

④ (32.)
「33. 」

This is the most interesting book (that) I have ever read.

「これは私が今までに読んだ中で最もおもしろかった本だ」

⑤ most が単に (34.) の意味で使われるときは the をつけない。

I encountered a most mysterious thing. 「私は非常に不思議なできごとに遭遇した」

③最上級を用いた重要表現

① (35.) : 「36. 」

② (37.) : 「38. 」

He is the last man to accept a bribe.

「彼は最もわいろを受け取りそうにない人だ」

→ 「彼は決してわいろを受け取るような人ではない」

③ (39.) : 「40. 」

I'm not in the least worried about it.

「私はそのことに関してまったく心配していない」

<英文法超基礎⑨> Lv.★★★★☆☆ 関係詞③(L70,71)

① 関係代名詞と前置詞

(a) This is the woman (who(m)/that) I spoke of yesterday.
 → 先行詞が人の関係代名詞 目的格

↓
 関係代名詞が (1.) にあたる場合には、改まった文体
 では (2.)・(3.) の形で表せる!
 先行詞 = ㊶ 先行詞 = ㊶以外

(a) This is the woman **of whom** I spoke yesterday.
 「こちらは私が昨日話した女性です」

(b) This is the house (which/that) Tom lives in. ← 不完全な文
 ↓
 This is the house **in which** Tom lives. ← 完全な文
 「こちらがトムの住んでいる家です」

<前置詞+関係代名詞の注意点>

- ① <前置詞+関係代名詞> の場合、関係代名詞は (4.)!
- ② 関係代名詞の (5.) はこの形では使えない!
- ③ 先行詞が ㊶ の場合は (6.) を使い、who は不可!

② 名詞+前置詞+関係代名詞

- ① (7.) などの不定代名詞の後ろに
 (8.) をセットにして節のアタマに置いて、「9. 」
 「10. 」などの意味を表す!

(例) He lent me two books, **neither of which** I've read yet.
 ← He lent me two books. I've read neither of them yet.
 「彼は私に本を2冊貸してくれたが、私はまだそのどちらも読んでいない」
 → neither of which/whom: 「11. 」は頻出! 後でやりす!
 ☆ この形は常に関係詞節の前に (12.) を置く! ← 非制限用法で用いる

② (13.) = whose + 名詞
 I bought a house **whose roof** is red. 「私は屋根が赤い家を買った」
 = I bought a house **the roof of which** is red.

③ 関係代名詞 what の用法

関係代名詞 what は、who, which, that と異なり、それ自体の中に先行詞を含んでいる関係代名詞 [≡ 14.] で「15. 」

の意味の名詞節を導く!

→ 文中で (16.)、(17.) の役割をする。

(例1) <What you need (now)> is a good sleep. 「今あなたに必要なのはぐすり寝ることだ」
 (S & O) S V (C) (V) (C)

(例2) I don't understand <what you say>. 「私にはあなたの言うことがわかりません」
 (S) (V) (O & O) S V (C)

(例3) This is just <what I wanted>. 「これはちょうど欲しいと思っていたものです」
 (S) (V) (C & O) S V (C)

(例4) There is some truth in <what he says>. 「彼が言うことにも一理ある」
 (V) (S) (前)の(O & O) S V (C)

< what と接続詞 that >

(a) I don't remember (①) he said.

(b) I don't remember (②) he said such a thing.

→ (a) ①の後ろに "said" の O が欠けた不完全な文 → (18.) が入る!

(b) ②の後ろに "he said such a thing" と完全な文 → (19.) が入る!

(a) 「私は彼が言ったことを覚えていない」 → 「彼が言った (20.)」を表す

(b) 「私は彼がそんなことを言ったということ覚えていない」 → 「彼が言ったという (21.)」を表す

④ what + S + be 動詞の形

① (22.): 「23. 」

He has made me <what I am>. 「彼が私を現在の私にした」
 (S) (V) (O) (C & C) S V (C) → 「彼のおかげで今日の私がある」

② (24.): 「25. 」

He isn't what he was ten years ago. 「彼は10年前の彼ではない」
 [he used to be]

<英文法超基礎⑦> Lv.★★★★☆☆ 関係詞④

① 関係副詞

関係副詞は(1.)・(2.)・(3.)・(4.)の4種類で、
(5.)に置き換えることができる。

This is the house. He was born in it.

→ This is the house { (which/that) he was born in. ← 不完全文
in which he was born. } 完全文
(6.) he was born. }

「こちらは彼が生まれた家です」

<関係副詞>

- ① (1.) = at which, to which, in which など。先行詞は「7. 場所」。
- ② (2.) = at which, on which, in which など。先行詞は「8. 時」。
- ③ (3.) = for which。先行詞は(9.)。
- ④ (4.) = in which。先行詞は(10.)。
- ★ 4と10は併用できない! → (11.)

② 関係副詞の要注意ポイント

- ① 関係副詞の where は、具体的な場所の他に(12.)「場合」、
(13.)「点」、(14.)「状況」なども先行詞にとる!

There are many cases where this rule doesn't apply.
「この規則が通用しない場合が多くある」

- ② 先行詞と関係副詞(15.)が離れる場合がある。

The day will soon come [when robots will do all housework.]
先行詞 ← 「ロボットがすべての家事をする日がすぐに来るだろう」

- ③ (16.) : 「17. 」

That's why I quit the job. 「そういうわけで私はその仕事を辞めた」

- ④ (18.) : 「19. 」

That is how [the way] I overcame it. 「そのようにして、私はそれを克服した」
★ the way SV: 「20. 」 = (21.)

- ⑤ (22.) or (23.) のどちらかを省略することが多い!

③ 制限用法と非制限用法

- ① The students [who got good grades] went to college. ← 制限[限定]用法
「良い成績を取った生徒が大学に進学した」← 後ろから前!
→ 数ある生徒の中から、大学に行ったのは良い成績を取った生徒だけと制限する用法
- ② The students, [who got good grades] went to college. ← 非制限[継続]用法
「(その特定の)生徒たちは良い成績を取って、大学に進学した」← 前から後ろ!
→ 「生徒たち」がいて、その生徒たちが良い成績を取った。と補足的に付け加える!

<非制限用法のポイント>

関係詞の前に (24.) を置いて、先行詞に (25.) な説明を加える。

次のようなケースは、非制限用法を使うのが普通。

- ① 先行詞が (26.) や世の中に (27.) (the sun など)
Tokyo, which is the capital of Japan, is larger than Washington, D.C.
「東京は日本の首都で、(アメリカの首都である)ワシントンよりも広い」

- ② my や her など人称代名詞の (28.) や this など先行詞がすでに制限されている場合

☆ (29.) は非制限用法には用いられない!

<whichの非制限用法>

- ① (30.) または (31.) を受けることがある

→ 「32. 」と訳す! (= and it)

He kept silent, which made her angry.

「彼は黙ったままだった、そしてそれが彼女を怒らせた」

- ② (33.) の which - which + 名詞

He was mistaken, which fact he later discovered.

「彼はまちがっていたが、その事実はおとになって気付いたのだった」

④ 関係副詞の非制限用法

where = and there / when = and then

(34.) と (35.) にこの用法がある!

• He went to Rome, where he saw many old buildings.

「彼はローマに行って、(そこで)多くの古い建物を見た」

<英文法超基礎⑨⑧> Lv.★★★★☆ 関係詞⑤

① 関係代名詞 what の重要表現

① (1.) : 「2. 」 = (3.)

(例) He is what we call [what is called] a man of culture.

「彼はいわゆる教養人だ」 ※ what we call [what is called] の後ろに C がくる

② (4.) : 「5. 」

(例) It was cold, and what was worse, it began to rain.

「寒かった。そしてさらに悪いことに、雨が降り出した」 ← 挿入句として用いられる!

③ (6.) : 「7. 」

(例) What with the wind and (what with) the rain, our picnic was spoiled. 「雨やら風やらで、私たちのピクニックは台無しになった」

④ (8.) = (9.)

「10. 」 ← A : B = C : D のイージ

(例) ^AReading is to the ^Bmind (what) ^Cfood is to the ^Dbody.
伝えたいこと = (誰もが知ってる) 当たり前のこと

「読書と精神の関係は、食物と肉体の関係と同じだ」
(← 読書は精神に対して、食物が肉体に対する関係にある)

⑤ (11.) : 「12. 」

(例) I gave him what little money I had. (← what は「関係形容詞」)

(= I gave him all the little money (that) I had.)

「私は少ないながら持っていたお金を残らず彼にあげてしまった」

※ what = (13.) : 「14. 」のニュアンスが含まれることもある

I'll give you what I had. 「私は持っているものすべてをあなたにあげるだろう」

② 前置詞 + 関係代名詞 + to V

(15.) が名詞を修飾する用法がある。

He needs a house in which to live. 「彼は住むべき家を必要としている」
= He needs a house to live in. ← 不定詞の形容詞用法

③連鎖関係代名詞節

He is a boy [who I think is a genius]. 「彼は私が天才だと思う少年だ」

→ He is a boy who I think that is a genius.
主格 接 S = a boy

このように、関係代名詞の直後に「S+V」などが入り込んだように見える形を、
連鎖関係代名詞節と呼ぶ。

＜連鎖関係代名詞節のポイント＞

① (16.)という形を見たら、この用法を疑う!

Tom is the only boy I know can speak Spanish.
S V V

② 例文のように、この構造では (17.)であっても (18.)できる。

Tom is the only boy (who) I know can speak Spanish.

③ この用法のVには、(19.)や (20.), (21.), (22.)など

(23.)を取るタイプがくる!

↑ このとき、(24.)ことに注意!

④ 挿入されている部分を () に入れてみるとわかりやすい。

Tom is the only boy [who (I know) can speak Spanish].

「トムは、スペイン語が話せるのを私が知っている唯一の男の子だ」

⑤ (25.)も同じ用法がある。

Do < what (you believe) is right > 「あなたが正しいと思っていることを
⑦ ⑧ S V₁ V₂ C ⑨
しなさい」

④二重限定 ← ③と混同しやすい

He is the only boy [(whom/that) I know] [who can solve the problem].
① ②

→ the only boy を ① whom I know が限定し、それをさらに ② who can solve the problem が限定しているので、二重限定と呼ばれる。

「彼は私が知っている少年のうち、その問題を解決できる唯一の少年だ」

→ 「彼はその問題を解決できる、私の知り合いの唯一の少年だ」

<英文法超基礎⑨⑨> Lv.★★★★☆☆ 関係詞⑥

① 関係代名詞の as

① 制限用法: 「1. → 先行詞に「3. 」や「4. 」 「5. 」がつく!

(例1) Choose such books as will benefit you. 「あなたのためになるような本を選びなさい」
 ① 先行詞 (s) V O

(例2) I want to buy the same clothes as she has. 「私は彼女が持っているのと同じ服を買いたい」
 ⑤ ① 先行詞 (0) S V

(例3) He came up with as good a solution as she did. 「彼は彼女(がした)のと同じくらいよい解決策を提案した」
 ⑤ ① 先行詞 (0) S V

② 非制限用法: 挿入的に用いられ、文頭・文中・文末に現れる!

→ 前または後に来る主節を受けて、「6. 」 「7. 」

(例1) [As I knew from his accent], he was from New York.

「彼のことはのなまりからわかったのだが、彼はニューヨーク出身だった」

この用法の as は次のような決まった形でよく出る。

<関係代名詞の as を使った慣用表現>

① (8.): 「9. 」

As is often the case with him, he was late for the meeting.
 「彼にはよくあることだが、彼は(そのときも)会議に遅刻した」

② (10.): 「11. 」

Tom, as was usual with him, took a walk.
 「トムは、いつものことだが、散歩に出かけた」

③ (12.): 「13. 」

④ (14.): 「15. 」

⑤ (16.): 「17. 」

② 関係代名詞としての than, but

通常は接続詞に用いられている than や but が関係代名詞として用いられることがある。

(18.) : 「19. 」

(20.) : 「21. 」

の形をとる。ただし、but が関係代名詞として用いられるのは文語で、古い表現。

(例1) He has more books [than are needed]. 「彼は必要以上の本を持っている」
⑤ ⑦ ⑩ (s) V

(例2) There is no rule [but has exceptions].
⑦ ⑩ (s) V

→ but = (22.) と置きかえてみる

↓
There is no rule that doesn't have exceptions.

「例外のない規則はない」(←「どんな規則にも例外はある」)

↑ 二重否定となる!

③ その他の注意すべき関係詞構文

① 先行詞が (23.) である文に注意!

This is all [the scientist can do]. 「これは科学者にできるすべてのことだ」
△ (→「科学者にできるのはせいぜいこれだけ」)

☆ (24.) : 「25. 」
= (26.)

All [you have to do] is (to) fill in this form.
「あなたはこの用紙に記入さえすればよい」

② (27.) / (28.) は関係詞の先行詞になりやすい!

「that which ~」 「those which [who] ~」 「that + 先行詞 + which ~」

「those + 先行詞 + which [who] ~」 の形で現れる。

That [which] we despise is often important in our life.

= what 「私たちが軽蔑するものが生活で重要であることがよくある」

<英文法超基礎⑩> Lv.★★★★★ 関係詞⑦

① 複合関係代名詞

関係代名詞の who, which, what に (1.) がついた (2.)
(3.)・(4.) を複合関係代名詞という。

それぞれ (5.) を導く用法と譲歩の (6.) を導く用法が
あり、5は (7.)、6は (8.) に
置き換えることができる!

< whoever の用法 >

① 名詞節 = (9.) : 「10. 」

< ^{⑤&S}Whoever ^Vcomes to the party > ^⑦will be welcomed. 「パーティーに来る人は
= Anyone [who comes to ...] will be welcomed. 誰でも歓迎される」
※ whoever が関係詞中で目的語になる場合、whomever が用いられることもある。

② 副詞節 = (11.) : 「12. 」

(^{M&O}Who(m)ever ^She ^Vtalks to), ^⑤Tom ^⑦makes ^⑩eye contact.
= No matter who he ... 「誰と話をしようとも、トムは相手の目を見る」

< whichever の用法 >

① 名詞節 = (13.) : 「14. 」

^⑤You ^⑦may take < ^{⑩&O}whichever ^Syou ^Vlike > 「あなたはどれでも好きなものを
= You may take any/either one [that you like]. 取ってよい」

② 副詞節 = (15.) : 「16. 」

(^{M&O}Whichever ^Syou ^Vbuy), ^⑤they ^⑦will ^⑩cost the same. 「どちらを買っても、
= No matter which you ... 値段は同じだろう」

< whatever の用法 >

① 名詞節 = (17.) : 「18. 」

^⑤I'll ^⑦believe < ^{⑩&O}whatever ^She ^Vwill say > 「彼が言うことなら何でも私は信じる」

② 副詞節 = (19.) : 「20. 」

(^⑤Whatever happens), I will not give up. 「たとえ何が起こっても、あきらめない」

② 複合関係形容詞

(21.)と(22.)は、後ろに名詞を置いて形容詞的な働きもできる！それぞれ名詞節と譲歩を表す副詞節の用法がある！
 ↳ 基本的には複合関係代名詞と同じ！

< 複合関係形容詞 >

① whatever + A ~ : (名) → 「23.

」/ (副) → 「24.

I'll follow < whatever advice she will give me > 「彼女がくれるどんな助言でも私は従うつもりだ」
 I'll follow her (whatever advice she gives me) 「彼女がどんな助言をしようと私は彼女についてく」

② whichever + A ~ : (名) → 「25.

」/ (副) → 「26.

You can use < whichever computer you like > 「あなたが好きなどのコンピュータでも使ってもよい」
 (Whichever team win), I'll be happy. 「どのチームが勝っても私は嬉しい」

③ 複合関係副詞

(27.)・(28.)・(29.)を複合関係副詞という。
 副詞節のみを作り、27・28は2用法、29は譲歩の副詞節のみを導く！

< wherever の用法 >

① 「30. 」 = (31.)

I'll take you (wherever you want to go). 「あなたが行きたい所はどこでも連れて行、てあげるよ」

② 「32. 」 = (33.)

(Wherever I go), I always take my camera with me.
 「どこに行くにも、私はいつもカメラを持って行く」

< whenever の用法 >

① 「34. 」 = (35.)

② 「36. 」 = (37.)

< however の用法 >

☆ (38.) : 「39.

= (40.)

(However tired he is), he studies math. 「どんなに疲れていようと、彼は数学を勉強する」

※ (41.) : 「42.

(However you do it), you'll have the same results. 「どんな風にしても、結果は同じだ」

<英文法超基礎⑩> Lv.★★★★☆☆ 代名詞⑦ (L6, 27~31)

① it と one と ones の用法

one... (1.)の反復を避ける代名詞で不特定のものを指す
 it... (2.)を表し、特定のものを指す
 → (3.)どちらでもOK!

(例1) Do you have a camera? 「あなたはカメラを持っていますか」
 - Yes, I have one [= a camera]. - 「はい、持っています」
 ↳ 特定のカメラではなく、一般的なカメラ

(例2) Is this camera yours? May I use it [= the camera]?
 「このカメラはあなたのですか」 「それを使ってもよろしいですか」

one	ones
① (4.)で使える	① (4.)で使えない
② (5.) Tom is wearing a red coat. A blue <u>one</u> would suit him.	② (6.) Are these your books? Can you lend me some <u>good ones</u> ?
③ (7.)	③ (8.)

② it と that と the one の識別

it / they... (9.)をつけてはダメ! ← 単独で用いる!
 the one + 修飾語句 → (10.)のみ!
 that + 修飾語句 → (11.)どちらも可!
 those + 修飾語句 → (12.)のみ! = (13.)

※ 「14. 」を表す those ← 通例. (15.)の形で「16. 」

those present: 「17. 」 / those chosen: 「18. 」

those involved [concerned]: 「19. 」

that + [修...] : that = 指しているものを (20.)で受ける

those + [修...] : those = 指しているものを (21.)で受ける

Q. 次の(a)~(c)の()に入るのはどちら?

(a) The population of New York is larger than (that/the one) of Tokyo.

→ "population" は不可算名詞なので (22.) は用いられない。よって
(23.) が入る。 「ニューヨークの人口は東京(の人口)よりも多い」

(b) The girl you danced with looked younger than (that/the one) I danced with. 「あなたが踊った女の子は、私が踊った子より若く見えた」

→ 反復を避けるための代名詞として、(24.) の場合、(25.) は用いられない。よって正解は (26.)

(c) These grapes taste better than (those/the ones) I bought before.

→ このケースは (27.)。ただし、「of ~」が続く場合は
(28.) の形を用いるのが一般的である。

③ it の用法

< 形式目的語 it + that 節の形をとる重要表現 >

① (29.) : 「30.

See to it that all the doors are locked.

「すべてのドアにカギがかかっていることを確認してください」

② (31.) : 「32.

③ (33.) : 「34.

④ (35.) : 「36.

⑤ (37.) : 「38.

< it を使った重要表現 >

① (39.) : 「40.

② (41.) : 「42.

It cost me two thousand yen to have a flat tire fixed.

「私はパンクを直してもらったのに2千円かかった」

③ (43.) : 「44.

④ (45.) : 「46.

⑤ (47.) : 「48.

<英文法超基礎⑩②> Lv.★★☆☆☆ 代名詞⑧

① 所有代名詞と such

① 所有代名詞は、人称代名詞の所有格 (my とか your とか) と名詞を合わせた働きをし、「1. 」という意味を表す。(←わからない人は⑥へ)

My bike is broken. Can I use yours? ← yours = your bike
「私の自転車は故障している」「あなたの(自転車)を使っていますか?」

<所有代名詞でよく問われる用法>

☆ 所有格は (2.) などと一緒に並べて使えない!

→ 「3. 」

(X) Will you lend me your that new CD? 「あなたのあの新しいCDを

(O) Will you lend me that new CD of yours? 「貸してくれませんか」

・ (4.) : 「5. 」

He wants to have a room of his own. 「彼は自分の部屋を持ちたい」
↑ a room of his は X。his は his rooms を表すので、「部屋の中の1つ」となる

② such の用法

↙ 名詞の直後に置いて

as such : 「6. 」 「7. 」

(例1) She is still a student teacher and should be treated as such. 「彼女はまた教育実習生なのでそのように扱われるべきだ」

(例2) Money, as such, does not always bring happiness.
「お金はそれ自体では必ずしも幸福をもたらすとは限らない」

② another, other 系 ← 詳しくは ②⑨ で!

① ● + ▲ 「10. 」

(8.) (9.)

② ● + ▲ + ■ 「11. 」 (12.)

③ ● + (▲▲▲▲...) 「16. 」 (14.) (15.)

④ (●●●) + (▲▲▲) + ... 「17. 」 (18.)

⑤ (●●●) + (▲▲▲▲) (19.) (20.)

③ another・other系の重要イディオム

① (21.) = (22.) : 23.

→ (24.)なので他動詞・前置詞の〇になる! ←副詞ではない!

We talked with each other. 「私たちはお互いに話合った」

② (25.) : 26.

We waited another ten hours. 「私たちはもう10時間待った」

= We waited (27.).

③ (28.) : 「29. 」 ← 単数

(30.) : 「31.」 ← 複数

④ (32.) : 33.

The guests came one after another. 「ゲストが次々と来た。」

⑤ (34) : 35.

It is one thing to make plans, and (it) is another to carry them out.

「計画をたてることと、それを実行することとは別のことだ」

⑥ (36.) : 37.

Some drink coffee, others drink tea.

「コーヒーを飲む人もいれば、紅茶を飲む人もいる。」

4 most/almost

$$\cdot (38. \quad) = (39. \quad) : \cdot 40.$$

• (41.) + (42.) A. 43.

「大半の学生」

「大半の学生」
→ most students / most of the students / almost all (of) the students

＜英文法超基礎 ⑩＞ Lv.★★★★☆ 代名詞⑨

① either / neither / none の用法 (← L③参照)

[A] either: 「1. , 「2. → (3.)扱い
→ (4.), (5.)の形で用いる

① { Either of ^{my など} the jackets looks good on you. 「どちらのジャケットも君に似合うよ」
Either day [= Either of the days] is OK. 「どちらの日でも結構です」

② (6.) = (7.) : 8.

I don't know either boy [= I know neither boy]. 「どちらの少年も知らない」
→ either ~ not は X

③ either が (9.), (10.), (11.) など 2 つでセットになる単語に使われると 2 の意味になり、「12. 」の意味になる。

either side = both sides 「兩側」

[B] neither: 13. → (14.)扱い

→ neitherは bothに対応する否定語で、対象は(15.)であることに注意! 対象が3つ・3人以上の場合、(16.)を使う!

I like neither of them. 「私はそれらのどちらも好きではない。」

Neither car is popular among young people. 「どちらの車も若者に人気がない」
 ↑ 基本的な用法は either と同じ!

[c]none: 17.

「none of + 可算名詞」→ (18.)扱い ← 単数扱いもある...

「none of + 不可算名詞」→ (19.)扱い

None of my friends like her. 「私の友達の誰も、彼女を好きではない」

None of the information is important. 「その情報はどれも重要ではない」

< none or nothing >

「私は昨日卵を何コか買ったが、ひとつも残ってなかった」

I bought some eggs yesterday, but there were () left.

→ none は先行する名詞を受けて「20.」を表し、nothing は特定の
ものではなく、(21.)のものを指すので、今回は (22.)が正解!

② some と any のポイント (← L ②⑤・②⑥ 参照)

① 肯定文での some : 「23. (Cの複)」「24. (Dの単)」

Some students ... 「いくつかの生徒・一部の生徒」

Some milk ... 「いくらかのミルク・少量のミルク」

※ some + 単数の普通名詞 : 「25.」 ← 「a/an + ②⑤」とほぼ同じ

I've read that in some book. 「何かの本で、それを読んだことがある」

② not + any = (26.) : 「27.」 any + not はダメ!

I didn't drink any milk. 「私は牛乳を全く飲まなかった」

③ 肯定文中の「28.」 は「29.」 となる

Any book will do. 「どんな本でもいいよ」

④ some of the books 「本の何冊か…」

any of the books 「30.」

⑤ some + 数詞 : 「31.」 = (32.)

some one hundred people 「およそ100人の人」

③ each と every (← L ③⑩ 参照)

[A] each : 「33.」 / each of A : 「34.」

Each student has a dream. 「生徒それぞれが夢を持っている」

Each of the brothers has a car. 「兄弟のそれぞれが車を持っている」

each + 単数名詞 / each of ~ は (35.) 扱い

[B] every : 「36.」 「37.」 ← (38.) は NG!

Every child has their own dream. 「どの子にも自分の夢がある」

every + 単数名詞 は (39.) 扱い

※ either・neither の補足

「彼は泳げない」「私も泳げない」

① He can't swim. I (40.)

= (41.)

) I.

② He can't swim, (42.)

) I.

<英文法超基礎⑩> Lv.★★☆☆☆ 代名詞⑩

① 再帰代名詞を使った重要表現 ← 再帰代名詞についてはL②⑦で!

A. SVOにおいて、(1.)としなければならないとき、Oを(2.)とする。

Tom introduced her. 「トムは彼女を紹介した」(← Tom ≠ her)

Tom introduced himself. 「トムは自己紹介をした」(← Tom = himself)

B. ⑩ + oneself = ⑩ 的なイミ ← ほぼイディオム!

- ① (3.) : 「4. 」
- ② (5.) : 「6. 」 = have a good time
- ③ (7.) : 「8. 」
- ④ (9.) : 「10. 」
- ⑤ (11.) : 「12. 」
- = (13.) / (14.)

C. ⑩ + oneself の重要表現

- ① (15.) = alone : 「16. 」
- ② (17.) : 「18. 」 ③ (19.) : 「20. 」
- ④ (21.) : 「22. 」
- ⑤ (23.) : 「24. 」
- ⑥ (25.) : 「26. 」
- ⑦ (27.) : 「28. 」 = between you and me

② soとnotによるthat節の代用

think, suppose, hope, be afraid などでは、肯定のthat節の代わりに(29.)
を、否定のthat節の代わりに(30.)を目的語として使うことがある!

"Will the weather be fine tomorrow?" 「明日は晴れるだろうか」

"I expect so." 「晴れることを期待しているよ」

↳ that the weather will be fine tomorrow.

"Do you think the rain will stop by tomorrow?" 「明日までに雨が止むと思う?」

"I'm afraid not [= that the rain will not stop...]" 「(残念ながら)止まないと思う」

- ① (31.)は次の2パターンの表現が可能
「そうでないと思う」→ (32.) / (33.)
- ② (34.)と(35.)には、直接notを続ける形しかない!

③ nothing・something系の重要表現

① (36.) : 「37.
= (38.) 」

☆ somethingを (39.) に変えると、「40. 」となる。

② (41.) : 「42.
→ (43.) : 「44.
→ (45.) : 「46.
→ (47.) : 「48. 」

③ (49.) : 「50. 」

④ (51.) : 「52.
= (53.) 」

⑤ (54.) : 「55. 」

⑥ (56.) : 「57. 」

⑦ (58.) : 「59. 」

⑧ (60.) = (61.) : 「62. 」

※ ②の補足

・ I'm afraid not. : 「63. 」 ← ⊖

(×) I'm not afraid so.

・ I hope not. 「64. 」 ← ⊕

(×) I don't hope so.

※ I'm afraid so, I hope so は可!

<英文法超基礎⑩⑤> Lv.★★☆☆☆ 接続詞⑥(L⑥④~L⑥⑧)

①名詞節を作るthat←L⑥⑥参照

[A] thatは「1. 」という意味で、文中でS・O・Cになる。

①<That he will come to the party> is certain.
 ↓
 「彼がそのパーティーに来ることは確かだ」
 <It> is certain <that he will come to the party>.

② I believe <(that) the team will win> 「私はそのチームが勝つと信じている」

③ The trouble is <that he doesn't speak English>
 「困ったことに、彼は英語を話せない」

[B] thatで導かれる名詞節がSVOCの文でOとなる場合は、(2.)
 を使う! (形式目的語構文)

・ I thought <that he should be captain> odd.
 ↓
 「私は、彼がキャプテンを務めるとは奇妙だと思った」
 I thought <it> odd <that he should be captain>.

[C] (3.)の形で、that以降が(4.)の場合、前の名詞と
 (5.)になり、「6. 」と訳す。(←L⑦①)

I was surprised at the news <that he^s had married Kumi^o>.

「彼がクミと結婚したという知らせに私は驚いた」

<同格のthat節をとる名詞>

①後ろにthat節をとる動詞の名詞形

(7.)「考え」, (8.)「提案」, (9.)「要求」
 (10.)「考え」, (11.)「主張」, (12.)「希望」
 (13.)「知識」, (14.)「決定」など

②それ以外のもの

(15.)「事実」, (16.)「うわさ」, (17.)「考え」
 (18.)「知らせ」, (19.)「見込み」, (20.)「理論」
 (21.)「可能性」, (22.)「意見」など

2 名詞節の whether・if

whether も if も that と同じように、名詞節も作れる! (この3つのみ!)

→ 名詞節のときだけ同じ意味になる!

接続詞	副詞節	名詞節
whether	「23. _____」	「26. _____」
if	「24. _____」 「25. _____」	

[A] whether は (27. _____), (28. _____) の形で、(29. _____) となる!

<Whether the story is true> is questionable. 「その話が本当
→ It is questionable <whether the story is true> がどうか疑わしい」

[B] if は (30. _____) と (31. _____) としてしか用いられない! (SやC、前置詞のOにならない!)

I don't know <if he is coming> 「彼が来るかどうか知らない」

<「~かどうか」を表す if と whether の違い>

- ① if が用いられるのは (32. _____) の場合のみ!
→ Sにならない (仮Sはオッケー)・Cにならない・前置詞のOにならない
- ② 後ろに to V が取れるのは (33. _____) だけ!
○ I haven't decided whether to go or stay. 「行くべきかどまるべき
× I haven't decided if to go or stay. なめか、決めていない」
- ③ (34. _____) は○、(35. _____) は×!
○ I don't know whether or not I'll go out. 「外出するかどうかわからない」
× I don't know if or not I'll go out. ← if SV or not は可!

3 名詞節の that のその他の用法

① (36. _____) を表す形容詞 (sorry, sure, surprised など) の後
I'm sure <(that) he will win> 「彼はきっと勝つと思う」

② (37. _____) : 「38. _____」 「39. _____」

③ (40. _____) : 「41. _____」

※ ②・③は、「前 + that 節は NG」の例外!

＜英文法超基礎⑩⑥＞ Lv.★★☆☆☆ 接統詞⑦

①時の副詞節を導く接続詞 (←L⑥参照)

① before S'V'~ : '1. '2. '3. '4. ← 否定形にしない!

②「～するとすぐに」系のまとめ

[A] (5.) · (6.) · (7.) SV ~ など

As soon as she saw me, she ran away. 「彼女は私を見るとすぐに逃げた」
 他にも (8.)・(9.)・(10.)がある

[B] (11.)

→ (12.)の形が多い!

I had hardly [scarcely] left home when [before] it began to snow.
「家を出るとすぐに雪が降り始めた」

☆ (13.)が文頭にくると、その後が(14.)
になる! (倒置)

→ Hardly had I left home when it began to snow.

[C] (15.)

→ (16.)の形が多い!

He had no sooner gotten into bed than he fell asleep.
「彼はベッドに入るとすぐに眠った。」

☆ (17.)が文頭にくると、倒置が起こる!

→ No sooner had he gotten into bed than he fell asleep.

[D] (18.) On seeing me, she ran away. (← [A]の文)

③ until $S'V' \sim$: '19.

, until $S'V' \sim : 20$.

not V until $S'V' \sim : \tau_{21}$.

「←直後に「at last」などがよくくる!
「(← Vするまで Vしない)」

Tom didn't start to read until he was five. 「5歳で初めて文字を読み始めた」

2 timeを使った接続詞

① (22.) : 「23. 」 ← 期限を表す

I'll have finished the work **by the time** he comes back.
「彼が戻ってくるまでに仕事を終わらせておきます」

② (24.) : 「25. 」

The first time I met him, he was ten years old.
「私が彼に初めて会ったとき、彼は10歳だった」

③ (26.) : 「27. 」

Every time I visit the town, I find something new.
「この町を訪れるたびに何か新しいものを発見する」

④ (28.) : 「29. 」

Next time I visit Osaka, I want to go to Namba.
「次に大阪を訪れるとき、難波に行きたい」

⑤ (30.) : 「31. 」

The last time I met him, he looked tired.
「この前彼に会ったとき、彼は疲れてそうだった」

3 理由の副詞節を導く接続詞

① because S'V' ~ : 「32. 」 ← 強調構文で使える! (他はあり) ^{またやります!}

It is because Kumi is beautiful that he loved her.
「彼がクミのことを好きになったのは、彼女が美しかったからだ」

☆ not ~ because S'V'... : 「33. 」

You should not despise a man just because he is poorly dressed.
「身なりが貧しいからといって人を軽蔑してはいけません」

→ only, just, simply, merely などとセットになることが多い!

※ 「34. 」の意味になることもある (← not の範囲が主節まで)

He doesn't study math because he dislikes it.
「彼は数学が好きではないので、それを勉強しない」

② since S'V' ~ : 「35. 」 ← 相手にもすでに知られているような理由を表す

③ , for S'V' ~ : 「36. 」

<英文法超基礎⑩⑦> Lv. ★★☆☆☆ 接続詞⑧

① 条件を表す接続詞とその代用表現

① (1.) : 「2. 」 If he comes, I'll go. 「彼が来るなら私も行く」

<If節の代用表現>

② (3.) (that) S'V' ~ ← 仮定法では用いない!

I'll go, provided / providing (that) he doesn't come.
「彼が来ないのであれば、行きます」

③ (4.) (that) S'V' ~ ← supposed はない!

Suppose / Supposing (that) you had one million yen, what would you do?
「100万円を持っていたとしたら、何をしますか」

④ (5.) : 「6. 」 「7. 」

You can go out on condition (that) you come home by seven.
「あなたは7時までに帰宅するのなら出かけてもよい」

⑤ (8.) = (9.) : 「10. 」

→ 特定の場合作除外する働きを持つ! 「11. 」

I work late at night unless I'm too tired.
「私は疲れてすぎない限り夜遅くまで働きます」

= I work late at night if I'm not too tired.

⑥ (12.) : 「13. 」 ← 副詞の once は 「14. 」

Once you understand the rule, you will have no further difficulty.
「いったんそのルールを理解すれば、それ以上難しいことは何もない」

⑦ (14.) : 「15. 」 「16. 」

・ In case you can't come, please let me know.

「(もし)来られない場合は私に知らせて下さい」 ← ifよりも「もしも」の意味合いが強い

・ Write this down in case you forget it. 「忘れるといけないからこのことを」

→ この意味で使われる場合、14は主節の後にくる化傾向が強い 書き留め

→ 予測される内容の実現の可能性が低い場合は (17.) を使う!

「話し手がそう感じたときに」

1 つづき

You must take your sweater in case it should snow.
「雪になるといけなからセーターを持って行きなさい」

<「～するといけなから」を表す表現>

① (18.)

Insure your house for fear (that) there would be a fire.
「火災に備えて家に保険をかけなさい」

② (19.)

Make a note of it lest you should forget. 「忘れるといけなからメモしなさい」

※①・②も改まった表現で、文章体で用いられる

☆ 次の2つの表現は接続詞ではなく副詞句なので要注意!

・ (20.) : 「21. 」

You should carry some money just in case. ←文末で使う
「もしもの場合に備えて、いくらお金を持って行った方がよい」

・ (22.) : 「23. 」 「24. 」

In any case I'll go to your room. 「とにかく君の部屋に行くよ」

2 譲歩を表す接続詞①

① (25.) : 「26. 」 「27. 」

Although/Though you are tall, you cannot reach it.
→ 後ろには事実がくる 「あなたは背が高いけど、それには届かない」

② (28.) : 「29. 」 ←不確実な内容を表す
(30.) : 「31. 」 ←事実に基づいた内容

(Even) if it rains, the game will take place as scheduled.
→ 雨が降るかどうかわからない 「たとえ雨が降っても、試合は予定通り行われる」

Even though it was raining, the game took place as scheduled.
「雨が降っていたけれども、試合は予定通り行われた」

☆ though は文末に置かれて 「32. 」の意味の副詞としても働く
It's cloudy. I don't think it will rain, though. 「曇っている。雨は降らないと思うけど」

<英文法超基礎⑩> Lv.★★☆☆☆ 接続詞⑨

①譲歩を表す接続詞②

- ① (1.) : 「2. 」
(3.) : 「4. 」

Whether you like it or not, you must do it.

「好きであろうとなかろうと、あなたはそれをやらねばならない」

Try your best whether you win or lose.

「勝っても負けても最善を尽くしなさい」

- ② (5.) : 「6. 」
= (7.) ← 第100構参照

No matter how [= However] busy I am, I'll go to your party.

「どんなに忙しくても、私はあなたのパーティーに行きます」

②結果・程度を表す接続詞 ← 第68構参照

- ① so ~ that 構文 : 「8. 」 「9. 」
→ (10.)

・ She got up ^⑩so early that she was in time for the first train.
「彼女はとても早く起きたので、始発の電車に間に合った」(結果)

・ It's not so cold that we need to wear an overcoat.
(X) 「とても寒くないのでコートを着る必要がある」(結果)
(O) 「コートを着る必要があるほど寒くない」(程度)

☆主節が否定文 → (11.) の意味で訳すと自然な訳になる!

- ② such ~ that 構文 ← 訳し方は同じ!
→ (12.)

・ He told us such a funny story that we all laughed.
「彼はとても面白い話をしたので、私たちはみんな笑った」

※ 12は (13.) と言い換えることができる!

・ He told us so funny a story that we all laughed.

☆ 不可算名詞の場合、(14.) を使うが、形容詞が (15.) など
数・量を表す形容詞のときは (16.) を使う!

- ③ (17.) → (18.)
 = (19.) → (20.)
 訳 「21. 」 「22. 」

- His talent was such that he became a famous actor.
 → Such was his talent that he became a famous actor.
 「彼の才能はすごいものなので有名な俳優となった」
 「彼の才能は有名な俳優となったほどだ」

③ 目的を表す接続詞

- ① (23.) : 「24. 」

Keep the door locked so that nobody can get in.
 「誰も入ってこれないようにカギをかけたままにしておいて」

- ② (25.) ← so thatよりも改まった言い方

We need to call a meeting in order that we can make these decisions.
 「これらを決定するために私たちは会議を開く必要がある」

※ 話し言葉では so that S can の (26.) は省略されることがある。
 逆に、so that の (27.) を省略して、(28.) の形で用いられることもある。これはかなり文語的な表現で、may が使われることが多い

- (29.) : 「30. 」 ← (31.) はよく省略
 I was excited, so (that) I didn't sleep. 「興奮して、眠れなかった」

④ while と whereas

< while の用法 >

- ① 期間 : 「32. 」 ← 後ろにはよく (33.) がくる!
 I fell asleep while I was reading. 「私は本を読んでいる間に眠ってしまった」
- ② 譲歩 : 「34. 」 = although
 While I like the shape of the bag, I don't like its color.
 「そのバッグの形は気に入ってるが色が好きではない」
- ③ 対比 : 「35. 」 = (36.)
 I've read fifty pages, while he's read only twenty.
 「私は50ページ読んだ。ところが彼は20ページしか読んでない」

<英文法超基礎⑩> Lv.★★☆☆☆ 接続詞⑩

① as far as と as long as

(1.): 2. 3.

→ ほぼ決まった形で出るのを覚える!

① (4.): 5.

As far as I'm concerned, I have no complaint.

= As for me 「私に関する範囲では → 私の意見としては、不満はありません」

② (6.): 7.

③ (8.): 9.

④ (10.): 11.

⑤ (12.): 13.

⑥ (14.): 15.

(16.): 17. 18.

= (19.) & (20.)

As long as I live, I'll never forget that day. (as long as = while)

「私が生きている限り[間]はその日のことを忘れることはないだろう」

You may use my car as long as you return it soon.

「すぐに返してくれる限り[のであれば]私の車を使ってもいいよ」 (as long as = if)

☆ (21.)で言い換えられたら、as long as!

② その他の接続詞

• (22.): 23.

Now (that) you are a high school student, you should be more independent.
「あなたはもう高校生だから、もっと自立すべきだ」

③ 接続詞の as

☆ as は (24.) の記号として考える!

< 接続詞 as の用法 >

- ① 時 「25. 」 「26. 」 ← while・when より同時性が強い!

She was singing as she cleaned up the room.

「彼女は部屋をきれいにしながら、歌を歌っていた」

- ② 原因・理由 「27.

Let's go by car, as I have a car. 「車があるから、車で行こう」

- ③ 比例 「28.

As it grew darker, it became colder. 「暗くなるにつれて、より寒くなった」

→ (29.)・(30.) などを見たら、比例の as!

- ④ 様態 「31.

Do as you like. 「あなたが好きなようにしなさい」

→ 代動詞 (32.) を見たら様態の as!

→ (33.)・(34.)・(35.) とセットになる!

SV..., just as humans use... 「ちょうど人間が... を使うように〜」

☆ 文末に置かれた (36.) は 「37. 」 の意味!

Leave the room as it is. 「部屋はそのままにしておいて」

※ (38.)・(39.) に言い換えられる!

I sang as she did. = I sang the way/like she did.

「私は彼女が歌ったように歌った」

- ⑤ 限定 「40. 」 → 直前の名詞の意味を限定する!

Language [as we know it] is a human invention. it は language を受ける

「我々の知っているような言語は人間の創り出したものである」

※ 関係詞っぽいけど、後ろは完全文で接続詞扱い!

- ⑥ 譲歩 「41. 」 ← (42.) の形!

Much as I admire him as a writer, I don't like him as a person.

「彼のことは作家としては尊敬するが、1人の人間としては好きではない」

<英文法超基礎⑩> Lv.★★★★☆ 前置詞⑥ (L59~L63)

1 時を表す前置詞

① (1.)

- ・ 時の1点 [時刻/時点] に用いる! → at six o'clock 「6時に」
(2.) : 「A歳で」 / (3.) : 「夜に」 (←一般的な夜)
(4.) : 「Aの終わりに」

② (5.)

- ・ 日 [曜日/日付] に用いる → on Monday 「月曜日に」 / on May 20 「5月20日に」
・ 特定の朝・午後・夜 → (6.) 「5月1日の朝に」
・ 形容詞で修飾 → (7.) 「寒い夜に」

③ (8.)

- ・ 幅のある期間 [年/季節/月] に用いる → in 1995 / in (the) winter / in May
・ 一般的な朝・午後・夜 → (9.) 「午前中に」
・ 「経過」を表す in : 「10. 」 「12. 」 ※ within 「13. 」
Let's leave in an hour. 「1時間経ったら出発しよう」 ← 今の時点から
Let's leave within an hour. 「1時間以内に出发しよう」
★ (14.) : 「15. 」 ← Aには「時」がくる
※ (16.) : 「久しぶり」

④ by vs until [till]

- by は 「17. 」 で 期限を表し, until [till] は 「18. 」 で 継続を表す。
I waited for her until six. 「私は彼女を6時まで待った」
Come here by six o'clock. 「6時までにはここに来てください」
★ it is not until A that SV ~ : 「19. 」

⑤ for vs during 「20. 」

- for は 期間の長さを表し, the などが入らない (21.) (22.) ← a few も
が来る。He traveled in Hokkaido for two weeks. 「彼は2週間北海道を旅行した」
→ during は 特定の期間を表し, (23.) などの語句を伴う。
I met her during the summer vacation. 「私は夏休み中に彼女に会った」
※ (24.) ~ years/months/days. etc. は for も during も可!

⑥ from と since 「25.

- from は動作や状態が始まる「**起点**」を表す。過去・現在・未来の文に使える。
The meeting will start from 9:00 tomorrow. 「会議は明日9時から始まる」
- since は「過去のある時点」から現在・過去までの「**継続**」を表す。主に完了時制で使う。
I have worked here since the age of 30. 「30歳のときからここで働いている」

⑦ before 「26. 」と after 「27.

- Lock the door before going to bed. 「寝る前にドアにカギをかけなさい」
Let's play soccer after lunch. 「昼食後サッカーをしよう」

② 場所・方向を表す前置詞①

① 点的な場所 → (28.)

→ (29.) 「角」, (30.) 「端、終わり」, (31.) 「駅」などに使う

② 「接触・面して」 → (32.) ← ただ「33. 」を表すだけではない!

He put the calendar on the wall. 「彼はカレンダーを壁に貼った」
★ 「on the + (34.)」は頻出!

③ go Ving 「35. 」の後には (36.)! (← at や on もたまに来る...)

I went skiing in Hokkaido last week. 「先週、私は北海道にスキーに行った」

④ 「～の上に」系

- ・ 「湖の上に船が浮かんでいる」 → 船と水面が接している → ~ (37.) the lake
- ・ 「パラグライダーが湖の上を飛んでいる」
→ パラグライダーが湖のはるか上空に飛んでいる → ~ (38.) the lake
- ・ 「橋の上には月が出ていた」 → 「橋」という基準より上を表す → ~ (39.)
(40.) 「海拔」はよく使われる the bridge

★ over は「41. 」で覆うイメージ! (上 > 下)

above は「下になるモノ」より「42. 」を示す! (上 < 下)

⑤ (43.) : 「44.

He came running toward me. 「彼は私の方へ向かって走ってきた」

※ toward noon 「45. 」のような時間的・数量的に接近することも示す。

＜英文法超基礎⑪＞ Lv.★★★★☆ 前置詞⑦

① 場所・方向を表す前置詞②

⑥ under & below ($\leftarrow L(6)$)

[A] under: 「1.」 \Leftrightarrow (2.) \leftarrow 「何かに覆われている」イメージ

「underを使ったほかの表現」

- under + 時間・年齢・距離など: 「3. 1 = (4.)」

No one under the age of 20 is allowed in. 「20歳未満の人は入室を許されていない。」

- ある状態・状況下にあることを示す: 「5.

→ under discussion '6. ,/under repair '7.

under development⁸. under construction⁹.

[B] below : 10.

⇔(11.) ←「ある基準よりも低い・下回る」イマジ

His scores was a little **below** average. 「彼の得点は平均を少し下回っていた」

② 道具や手段を表す前置詞

① with ε by ($\leftarrow L$ ⑥3).

[A] with + 道具: 「12.

I cut my finger **with** a knife. 「ナイフで[を使って]指を切った。」

→ "by knife"は×。「ナイフ」が意志を持って、切ったニュアンスになる

$[B]_{by} + (13. \quad) : 14.$

by train 「電車で」や by bike 「自転車で」など、交通手段を示す。

by (tele)phone 「電話で」, by e-mail 「メールで」 など**通信手段**を表す用法もある。

②手段・方法・素材を示す(15.): 16.

• in English 「英語で」、in cash 「現金で」、in ink 「インクで」など ← (18.)

- ・ 具体的な交通手段を表す場合 ← 後ろの名詞に (19.) などが付く

in our car 「私たちの車で」 in the taxi 「タクシーで」 ← 小型の乗り物で使う

③交通・通信手段を表す(20.

→ 後ろの名詞に (21.)などが付く! ♪ またがる系の乗り物にも!

on the train, on the bus, on our ship ← 大型の乗り物で使う

on the (tele)phone, on the radio, on the Internet ← 情報機器・メディアに付

③ with と by のその他の重要な用法

< with 「〜と」以外の重要用法 >

- ① 「理由」を表す: 「22. 」 He was shaking with cold. 「彼は寒さで震えていた」
- ② 「様態」を表す: 後に名詞を伴って (23.) を作る!
→ with ease 「24. 」 = easily / with care 「25. 」 = carefully
with diligence 「26. 」 = diligently など
- ③ 感情・態度の対象を示す: 「27. 」
there is something wrong with A 「28. 」
help A with B: 「29. 」
- ④ 付帯状況 (← L9⑩) He sat with his eyes closed. 「彼は目を閉じて座っていた」

< by のその他の用法 >

- ① 単位を表す by → (30.): 「31. 」
We can rent out that restaurant by the hour.
「私たちは時間決めであのレストランを借りることができる」
- ② 差を表す by → (32.): 「33. 」
I missed the train by about 20 minutes. 「20分ほどの差で電車に乗り遅れた」

④ 動詞 + A + by / on / in + the + 身体の一部

「つかむ」系の動詞 → (34.)

- ① (35.) 「Aの腕をつかむ」
- ② (36.) 「Aの腕をゆさぶる」

「たたく・触れる」系の動詞 → (37.)

- ① (38.) 「Aの頭を触る」
- ② (39.) 「Aの肩を軽くたたく」
- ③ (40.) 「Aの頭をたたく」

「見る」系の動詞 → (41.)

- ① (42.) 「Aの目を見る」 ※この用法のときは
- ② (43.) 「Aの顔をじっと見る」 at は不要!

<英文法超基礎⑫> Lv.★★★★☆ 前置詞⑧

① 主な前置詞の注意すべき用法

① 着衣の in: 「1.

Who is that woman in the blue dress? 「青いドレスを着たあの女性は誰?」

② to の用法

[A] (2.): 「3.

To my surprise, he won the race. 「驚いたことには、彼はレースに勝った」
→ "surprise" の部分には joy 「うれしいことには」、sorrow・disappointment 「悲しいことには」 などがくる

[B] 「適合・一致」を表す → 「4.

We danced to the accompaniment of music. 「音楽に合わせて踊った」
→ to A's liking [taste]: 「5.」、to order 「6.」 能

[C] 「範囲・程度」を表す → to some extent: 「7.」 など

他に、to the end 「8.

to the best of my knowledge: 「9.」 も押さえる!

③ for の用法

[A] 「賛成・支持」を表す → 「10.

Are you for him or against him? 「あなたは彼に賛成ですか、
※「～に反対して」は (12.) を用いる。 それとも反対ですか」

[B] 「基準・観点」を表す → 「13.

She looks young for her age 「彼女は年齢の割には若く見える」
→ for A's age 「15.」 は頻出!

[C] 「交換・代理」を表す → 「16.

Can you attend the meeting for me? 「私の代わりに会議に出てくれない?」
He sold his car for \$1,000. 「彼は車を1000ドルで売却した」

④ from の用法

[A] 「原料・材料」を表す → 「18.

This bread is made from rice. 「このパンは米でできている」

[B] order A from B: 「19.

← order A to B (X)

⑤ of の用法

[A] 「材料・構成要素」を表す → 「20.

This spoon is made of silver. 「このスプーンは銀製だ」

※ consist of A : 「21.」 = (22.)

[B] 「原因」を表す → (23.) : 「24.

My father died of cancer. 「父はガンで亡くなった」

→ of 単独より. (25.) の形で使われることがよくある。

[C] (26.) = (27.)

of importance = (28.) / of value = (29.)

of use = (30.) / of help = (31.) など

This is of no importance. = This is not important. 「これは重要ではない」

② その他の重要な前置詞の用法①

① over の用法

[A] 「手段」を表す → 「32.」 ← over は何かを經由した手段を表す

over the phone 「電話で」, over the Internet 「インターネットで」

→ (33.) でも可! (こちらの方が一般的), by を使う場合は (34.) で

[B] 「従事」を表す → 「35.

over lunch : 「36.」, over tea : 「37.

※ 飲食物だけでなく over a book 「38.」 のようにも使う。

② out of A : 「39.

He took some money out of the bank. 「銀行からお金を引き出した」

③ as : 「40.」 consider A as B 「41.

④ like : 「42.」 ⇔ (43.)

⑤ against : 「44.

⑥ 「目標」を表す at → 「45.

aim at A : 「46.

＜英文法超基礎⑪③＞ Lv.★☆☆☆☆ 前置詞⑨

1 その他の重要な前置詞の用法②

⑦ exceptの用法

→ except A 「1. 修飾する語は、(3.)は (2.)として名詞を修飾する。)系や (4.)など」

が修飾する名詞 (all the members など) であることに注意!

Everyone except me knew it. 「私以外のすべての人がそれを知っていた。」

↑ Everyone knew it except me. とも言える。

☆ except Aは(5.)では用いない! (6.)なら可!

Except for me, everyone knew it.

↑ except for A は (7.) として機能する!

↪ 前置詞の用法もある!

☆ except $A = (8, \quad)$ は $A \subset (9, \quad)$ と

使えない! except for Aは使える。

She eats no meat except [but] chicken. 「彼女は鶏肉以外の肉は
 同類の名詞 食べない」

⑧ besides : 10. 11. 12.

He drank some beer besides a bottle of whisky.

「彼はウイスキーを1本あけたうねに、ビールを少し飲んだ」

⑨ beyond : '13. beyond me : '14.

→ beyond description: 15.

beyond belief: 16.

↓ / beyond reach: 17.

beyond recognition: 18.

⑩ despite $A = (19 \dots)$: 20.

We took a hike despite the rainy skies. 「雨空にもかかわらず」

他にも...

(21.

) (22.

）も同じ意味！

ハイキングに出かけた

2 群前置詞 ← 第59講

① 原因・理由を表す群前置詞: 「23.

1. (24.) 2. (25.)
3. (26.) 4. (27.)
5. (28.): 「29.

The airport was closed on account of the fog.

「空港は霧のために閉鎖された」

② 利益・目的を表す群前置詞

- (30.): 「31. ← (32.)

He gave up smoking for the sake of his health.

の形をとること
もある

「彼は健康のために禁煙した」

③ (33.): 「34. 「35.

According to the weather forecast, it will rain tomorrow.

「天気予報によれば、明日は雨だ」

The race started according to plan. 「そのレースは計画通りに始まった」

④ (36.): 「37.

→ (38.)と区別する。どちらか一つしか選べない場合には36を用い、
両方同時にすることができる場合は38を用いる。

I watched TV instead of studying. 「私は勉強はせずにテレビを見た」

I stayed home without watching TV. 「テレビを見ないで家にいた」

⑤ (39.): 「40.

⑥ (41.): 「42.

They communicate by means of the Internet. 「彼らはインターネットで交流している」

⑦ (43.): 「44.

⑧ (45.): 「46.

⑨ (47.): 「48.

= (49.

⑩ (50.): 「51. 「= (52.)

<英文法超基礎①④> Lv.★★☆☆☆☆ 主語と動詞の一致

① 相関表現が主語の場合

① 複数扱いするもの

- ・ (1.) : 「2. 」
Both Ken and I are college graduates. 「ケンも私も大卒だ」

② 動詞の形をBに合わせるもの

- ・ (3.) : 「4. 」
 - ・ (5.) : 「6. 」
 - ・ (7.) : 「8. 」
 - ・ (9.) : 「10. 」
- Neither Ken nor I was [were] there. 「ケンも私もそこになかった」

③ 動詞の形をAに合わせるもの

- ・ (11.) : 「12. 」
Ken as well as you is in the wrong. 「あなただけでなくケンも間違っている」

② the number of A と a number of A

- ・ the number of A : 「13. 」 → (14.)
The number of cars has been increasing. 「車の数が増えている」
- ・ a (large) number of A : 「15. 」 → (16.)
A number of passengers were injured in the accident. 「相当数の乗客がその事故で負傷した」

③ a good many ~ と many a ~

- ・ a good many + 複数名詞 : 「17. 」 → (18.)
A good many books in that library were burned by the fire. 「火事であの図書館の相当数の本が焼けた」

- ・ many a + (19.) : 「20. 」 → (21.)
Many a student has failed the test. 「多くの生徒はそのテストに落第した」

※ the amount of A : 「22. 」 → (23.)

- The amount of traffic was reduced. 「交通量は緩和された」

4 most of 系

- most of A : 「24. 」 → (25.)

Most of the letters are written in English.

「それらの手紙のほとんどは英語で書かれている」

Most of the apple is rotten. 「そのリンゴの大半は腐っている」

他に、(26.)

) of A も同タイプ!

5 形は複数形でも単数扱いする表現

① 国・団体・組織などの名前

(27.) 「国連」 (28.)

「アメリカ
合衆国」

(29.) 「タイムズ紙」 など

② 学問・ゲーム・病気などの名前

(30.) 「数学」, (31.)

「言語学」 (32.)

billiards 「ビリヤード」 など

「はしか」

③ 時間・金額・距離・重量などを表す語

two months → (x) are (o) is / two hundred dollars → (o) is
※ (33.) の場合は例外!

6 その他の注意すべき主語と動詞の一致

① 主格の関係代名詞の直後 → (34.) に一致

She is the woman who cleans our house.

「彼女は私たちの家をきれいにする女性です」

② There + V + S. 構文 → (35.) に一致

There is an apple on the table. 「テーブルの上にリンゴがある」

③ 修飾語句がある場合 → 中心語に合わせる!

a box of candies → (36.) 扱い

← (38.) 「牛」も同じ

④ (the) police 「警官」 → 形は単数だが (37.) 扱い!

The police are looking into the case. 「警察はその事件を捜査中だ」

⑤ (39.) → 「40. 」を表し、複数扱い! the young 「若者」

<英文法超基礎⑪⑤> Lv.★★☆☆☆ 疑問文と語順①

① 疑問副詞 howについて

(関連講義 L③④~③⑦, L⑥⑨)

<howの性質>

① howは、節をつくるときは(1.)のみ!

② howの後ろの形によって訳し方が変わる! ← L③⑥参照!

(A) how + (2.) + S'V'... : 「3. 」

How ^⑤hard did he study? 「どれほど熱心に彼は勉強したか」
完全な文

How ^⑥long is that bridge? 「あの橋はどれくらいの長さですか」
不完全(っぽい)文 (C)

(B) how + (4.) : 「5. 」

How do I do this? 「これをどのようにすればいいのか」

② 注意すべき間接疑問文

① Do you know where he lives? 「彼がどこに住んでいるのかわかりますか」

② Where do you think he lives? 「彼がどこに住んでいると思いますか」

Q. なぜ語順が違うのか?

①の文は(6.)で答えることができる(はい、知っています/いいえ、知りません)。

②の文は、「Do you think where he lives?」だと「彼はどこに住んでいるかを思いますか」と意味の通じない文になる…。

☆ (7.)などの動詞の後ろに間接疑問がくる
場合には (8.)疑問文になる。

→ (9.)

☆ (10.)などの「思う・言う」系の動詞を使った
疑問文では、その目的語となる疑問詞が必ず (11.)にくる!

→ (12.)

③ 疑問詞を使った慣用表現

① (13.): 「14.
What is your teacher like? 「あなたの先生はどのような人ですか」

※ (15.): 「16.

What is (it) like to walk on the moon? 「月の上を歩くのはどのようなものか」

② 「なぜ〜なのか」系

Why did you go there? 「なぜあなたはそこに行ったのか」

= (17.) did you go there (18.)? ← 「何のために」→ 「なぜ」

= (19.) (20.) (21.) (22.) there?

= (23.) (24.) (25.) (26.) there?

③ 「Vしたらどうですか」系

• (27.) ← 自分も含めて言う場合は (28.) を使う。

• (28.) Why not use this pen? 「このペンを使ったら?」

• (29.) / (30.)

• (31.)

What do you say to going for a drive? 「ドライブに出かけませんか」

④ (32.): 「33.

→ how は X。how を使うのであれば、(34.)?」

⑤ (35.): 「36.

= (36.)

⑥ (37.): 「38.

→ 物語・記事・作品などの内容をたずねる表現

⑦ (39.): 「40.

⑧ (41.): 「42.

※ 勤め先を尋ねる表現は (43.)

<英文法超基礎⑪⑥> Lv.★★☆☆☆ 疑問文と語順②

① How or What

① () do you like your new bicycle? 「新しい自転車はどうですか」
— I like it very much. 「とても気に入ってます」

② () does he look like? 「彼はどのように見える→どんな見た目ですか」
— He is very tall. 「彼はとても背が高い」

① (1.) : 「2. 」と相手の意見・感想
などを求める。

② (3.) : 「4. 」
の意味。whatは前置詞 likeの目的語となっている。

③ () do you think about this book?

④ () do you feel about this book? 「この本についてどう思うか」

③, ④は「~についてどう思うか・どう感じるか」と同じような意味になるが、疑問詞は動詞が thinkの場合は (5.), feelの場合は (6.) になる!

⑤ () do you say it in English?

⑥ () do you call it in English? 「それを英語でどう言うか」

⑤の動詞は say なので、(7.) を入れると say の目的語が (8.) の2つになり、不適。また say は (9.) の文型をとらないので、(10.) を補語と考えることはできない。よって (11.) が正解。

⑥の動詞は call で (12.) の文型をとるので、(13.) が補語として働いている。よって (14.) が正解。

☆ what と how の違い

what → 後ろが (15.) な文 & (16.) をたずねる!

how → 後ろが (17.) な文 & (18.))), 19. (19.) をたずねる!

他にも...

(20.) : 「21. 」

→ 料理について好みの調理法をたずねるときなどに使う。

(22.) : 「23. 」

2 修辞疑問

「どうして・誰が～しょうか(いや、しない)」という「24.」を表す表現が英語にもあり、それを修辞疑問と呼ぶ。

<修辞疑問の特徴>

- ① 形は (25.)。
- ② 表現の効果を狙うもので、相手の (26.) は必要ない!
→ 直後に答えを示す文があれば「27.」、ない場合は「28.」!

Nobody knows the answer to the question.

= (29.) knows the answer to the question?

「誰がその疑問に対する答えを知っているだろうか」

→ 「誰もその疑問に対する答えを知らない」

Everyone loves peace. - Who doesn't?

「誰でも平和を愛している」「愛していない人は誰がいるだろうか(いや、いない)。」

<修辞疑問の典型表現>

- ① (30.): 「31.」

How could I possibly do such a thing?

「どうしてそんなことができませんか(いや、できない)。」

- ② (32.): 「33.」

= (34.): 「35.」

3 付加疑問文 ← L③⑦参照

- ① there構文の付加疑問(肯定文)

There is something wrong with this watch, (36.)?

「この時計はどこがおかしいですね。」

- ② 命令文の付加疑問(肯定文) → (37.)で表す!

他に would you? / can you? / can't you? / could you? などがあるが

(38.)は不可!

- ③ Let's ~ の付加疑問 → (39.)で表す!

<英文法超基礎⑪⑦> Lv.★★★★☆☆ 疑問文と語順③

① 強制的に倒置が生じるケース

強調のために(1.)や(2.)を文頭に持てくると、後ろは(3.)と同じ語順になる！これを(強制)倒置という。

<強制倒置のパターン>

① (4.)のついた副詞(句/節)が文頭にきた場合

Only in a tropical climate do these plants grow.
「これらの植物は熱帯の気候でしか育たない」

② (5.)・(6.)が文頭にきた場合

Little did I dream that he would win the race.
「彼がそのレースに勝つとは夢にも思わなかった」

※この場合の little は(7.)や(8.)とほぼ同じ意味！
弱い否定語の意味「9. 」ではないので注意！

③ (10.)(11.)「12. 」(13.)(14.)「15. 」が文頭にきた場合

Hardly have I met such a kind boy.
「そんな親切な少年に会ったことはほとんどない」

④ (16.)が文と文を結んで(17.)が文頭にきた場合

Not only did he go there but also he met her.
「彼はそこへ行っただけでなく彼女に会った」

⑤ (18.)「19. 」が文頭にきた場合

Not a word did he say. 「彼は一言も言わなかった」

⑥ (20.)が文頭にくる場合 ← 前置詞に注意！

Under no circumstances must the door be left unlocked.
「決してそのドアのカギを開けたままにしてはならない」

※under no circumstances: 「21. 」
= (22.)/(23.)/(24.)

2 構文上の倒置

- ① (25.) : (26.) ← (27.) の前文を受けて
→ 前文が一般動詞なら (28.) を用い、助動詞や be 動詞の
場合は (29.) 用いる。

He caught cold and so did his sister.

「彼は風邪をひいた、そして彼の姉もそうだった」

- ※ (30.) の語順もあり、前文を受けて (31.) の意味で使う。

She said he was kind and so he is.

「彼は親切だと彼女は言ったが、実際その通りだ」

- ② (32.) : (33.)

- 前文が (34.) の場合は、so の代わりに neither / nor を用いる。

I can't eat natto. - Neither [Nor] can I.

「僕は納豆を食べられない。ー私も食べられません」

- ③ (35.) : (36.) 構文の倒置 ← L(08) 参照

- She is so rich that she can buy a car.

- So rich is she that she can buy a car.

「彼女はとてもお金持ちなので車を買える」

- His talent was such that he became a famous actor.

- Such was his talent that he became a famous actor.

「彼の才能はすごいものなので有名な俳優となった」

3 注意すべき語順

- ① so と such → 後ろに名詞がくる場合

so → (37.) such → (38.)

- ② so · as · too → (39.)

He is as good a player as Shohei Ohtani.

「彼は太谷翔平と同じくらい良い選手だ」

- ③ 「~のA後に」 → (40.)

two years after ~ 「~の2年後に」

- 「~のA前」 → (41.)

- ④ 他動詞 + 副詞 → 後ろに代名詞がくる場合 ← イディオムで頻出!

→ (42.) carry out A } 「Aを
I carried it out. 「私はそれを実行した」 carry A out } 実行する

<英文法超基礎⑪⑧> Lv.★★☆☆☆ 否定①

① 英語における否定語の役割

日本語：文の最後になってから、その文が肯定か否定かがわかる。

英語：否定であることを(1.)ことが多い。

I do not like soccer. 「私はサッカーが好きではない」



英語では、①否定語により何が否定されているのか[2.]、②否定語を文中のどこに置くべきか[3.]を理解することが重要!

① 否定の範囲 → notなどの否定語から(4.)に及ぶのが一般的!

「その知らせに誰も驚かなかった」という英文で、anybodyやanyoneが文頭にくると、否定の力の及ぶ範囲外となってしまう。

× Anybody was (not) surprised at the news.

○ Nobody was surprised at the news.

→ nobodyやno oneなどの否定語を文頭に持ってきて、文全体を否定する

② 否定語の位置 → 否定語を(5.)に持ってくる傾向が強い!

「彼は来ないと思う」を英語で表すと...

△ I think he will (not) come.

○ I do (not) think he will come.

→ notを文頭に近い位置に置く!

<「私は～ないと思う」タイプ>

I don't (6.)・(7.)・(8.)・(9.)～

I don't suppose he is going to get married. 「彼は結婚しないと思う」

He didn't seem to understand it. 「彼はそのことを理解していないようだった」

他にも(10.)「～と予想する」(11.)「～と推測する」などもある。

他に...

hope 「～を望む」→「12.

be afraid / fear 「～を恐れる」→「13.

→ thinkのように前で否定するのではなく、(14.)を否定する!

▶ I hope they won't lose the race. 「彼らがそのレースに負けないことを願っています」

▶ I'm afraid he won't come. 「残念ながら彼は来れないと思います」

2 notについて

notは否定語としてそれほど強い力を持っていない!

→「すべて」、「必ず」、「いつも」などを「すべて違う」などと全体を否定できない!

① Not all of them attended the meeting.

「彼ら全員が会議に出席したわけではなかった」

② All of them didn't attend the meeting. 「全員が会議に出なかった???」
? ↑ ↓ ?

①では、notがall of themを否定して(15.)となるが、②のようにAllを
アタマに持ってくると、notが文全体を否定しているのか、all of themを否定しているのか、
ハッキリしなくなる…。全体否定にする場合には None of them attended ~. になる!

< notを使う全体否定の例 >

① (16.) [= 17.] 「18. 」 (2者の場合)

I don't know either boy. 「どちらの少年も知らない」

② (19.) 「20. 」 「21. 」 (3者以上)

I didn't talk with any of them. 「彼らの誰とも話さなかった」
= I talked with none of them.

③ (22.) • (23.) 「24. 」

What he said is not wrong at all. 「彼の言ったことは全く間違っていない」

④ (25.) 「26. 」

※ not (~) just [simply] は 「27. 」

I just can't understand it. 「私はそのことが全く理解できない」

He is not just a friend of mine. 「彼は単なる友人ではない」

⑤ (28.) 「29. 」

Not a single question was answered.

「質問はどれひとつとして答えられなかった」

3 部分否定の頻出表現

① (30.) : 「31. 」

② (32.) : 「33. 」

③ (34.) : 「35. 」

④ (36.) : 「37. 」

⑤ (38.) : 「39. 」

<英文法超基礎⑪⑨> Lv.★★☆☆☆ 否定②

① no

① no は名詞の前に置かれて、その名詞を強く否定して「1. _____」の意味。

I have no brothers. 「私は一人も兄弟がいない」

※ no one [nobody], nothing, nowhere など、2. _____

の意味になる。

The key was nowhere to be found. 「カギはどこにも見つからなかった」

② be動詞の補語を否定する場合に no を使うと、修飾する名詞を強く否定し (3. _____)。称賛や非難の意味が含まれる。

It is no easy task. 「簡単な仕事だなんてとんでもない(いや難しい)」

③ no を使った頻出表現

• (4. _____): 「5. _____」
= (6. _____) / (7. _____)
(8. _____)

• (9. _____): 「10. _____」

I have no doubt whatever that she is innocent.

「彼女が潔白であることに何の疑いも抱いていない」

② 二重否定

否定の意味が2つ重なると、否定が互いに打ち消しあって肯定の意味になる。これを二重否定という。肯定文との書き換えパターンがよく出る!

There are no people who don't make mistakes.

「間違いをしない人はいない → 人は間違いをするものだ」

<二重否定を使った慣用表現>

① (11. _____): 「12. _____」

I never see this movie without being moved to tears.

= Whenever I see this movie, I'm moved to tears.

「この映画を見るたびに、感動して泣いてしまう」

② (13. _____): 「14. _____」

③ (15. _____): 「16. _____」

④ (17. _____): 「18. _____」

③ 否定語を含む重要表現 ← 過去に載せたモノは省いています

① (19.) : 「20.

She is second to none in French. 「彼女はフランス語では誰にも負けない」

② (21.) : 「22.

There is nothing like home. 「我が家ほどよいものはない」

③ (23.) : 「24.

(It's) No wonder he refused your offer.

「彼が君の申し出を断ったのは当然だ」

< 「～を除いて、～以外は」の but の重要表現 >

① (25.) : 「26.

The company makes nothing but shoes. 「その会社は靴を専門に作っている」

② (27.) : 「28.

She does nothing but read all day. 「彼女は1日中本ばかり読んでいる」

③ (29.) : 「30.

I have no choice but to do it. 「そうするしかないですね」

④ (31.) : 「32.

「← Aには㊦・㊧がくる！」

He is anything but a gentleman. 「彼は決して紳士ではない」 ← 紳士だなんて
とんでもない

④ 否定語を使わない否定表現

① (33.) : 「34.

She is the last person who will betray you. 「彼女は決してあなたを裏切ら
= She is the last person to betray you. ないだろう」
← Aには、㊦・Ving・㊧がくる

② (35.) : 「36.

「37.

The result is far from satisfactory. 「結果は決して満足のいくものではない」

③ (38.) : 「39.

← Aには「欠点・病気・悩み」などがくる

④ (40.) : 「41.

⑤ (42.) : 「43.

⑥ (44.) : 「45.

⑦ (46.) : 「47.

<英文法超基礎②③> Lv.★★★★☆☆ 省略・強調

① 様々な省略表現

[A] 語句の反復を避けるための省略 → (1.) の省略

▶ He didn't come though he said he would come.
「彼は来ると言っていたが、来なかった」 → (2.) の後の V の省略

▶ I'm not as good at sports as I used to be good at sports.
「私は以前のようにスポーツが得意ではない」 (3.) の後の C の省略

[B] to V の to の後の原形の省略 → (4.)

▶ He ate it though I told him not to eat it.
「私は彼にそれを食べないようにと言ったのだが、彼はそれを食べた」

[C] 副詞節の (5.) の省略

when, while, if, unless, though などの副詞節において、副詞節の主語が (6.) と同じ場合、<主語 + be 動詞> がセットで省略されることがある。

▶ My father fell asleep (while he was watching TV). ← while + Ving は 頻出!

「テレビを見ている間に、父は眠ってしまった」

[D] (7.) 節中で <主語 + 動詞> が省略されて、熟語的に使われる表現がある。

① (8.) : 「9. 」 「10. 」

▶ Correct errors if any. 「もし誤りがあれば訂正しなさい」
(there are) (errors)

▶ There is little, if any, difference between the two.
「両者の間には、たとえあったとしてもごくわずかしが、相違はありません」
↑ この意味で用いられる用法は (11.) や (12.) とともに用いる!

② (13.) : 「14. 」

She has seldom, if ever, spoken in public. ← if (she has) ever
「彼女は人前で話をしたことは、たとえあったとしても、ごくまれである」

③ (15.) : 「16. 」 「17. 」

Her condition is, if anything, worse than yesterday. ↑ if any と同じ用法
「彼女のコンディションは、どちらかといえば、昨日よりも悪い」

④ (18.) : 「19. 」 ← A と B は文法的に対等

The news is accurate in many, if not most, respects.
「そのニュースはほとんどでないにしても多くの点で正確だ」

② 強調構文

強調構文[分裂文]とは、ある一文の(20.)と(21.)を It is と that ではさみこんで文頭に出したものだ。

(22.) ← thatの代わりに (23.) もOK
(24.)

It is Mike that/who broke the window. 「窓を割ったのはマイクだった」
It was in 1789 that the French Revolution broke out. 「フランス革命が起こったのは1789年だった」

< 注意すべき強調構文 >

① (25.) : 「26. 」
I did not realize how ill she was until I visited her.
↓ 「彼女を見舞うまでどれほど病気が重いのが気がつかなかった」
It was not until I visited her that I realized how ill she was.
「彼女を見舞って初めて、彼女がどれほど病気が重いかを知った」

② 疑問詞の強調構文 — (27.)
What do you want? → Is it what that you want?
→ What is it that you want? ↑ 文頭に持ってくる
「あなたがほしいものは一体何ですか」
※ 間接疑問にすると、(28.) の語順
I don't know when it is that he went there.
「彼がそこに行ったのがいつなのかわからない」

③ It is not A but B that ~. → (29.)
It is not what he says that annoys me, but how he says it.
「私をイライラさせるのは彼が話す内容ではなく、その話し方だ」

③ その他の省略・強調表現

① (30.) : 「31. 」
② (32.) : 「33. 」 ← Why don't you V~?

① (34.) + 動詞の原形 : 「35. 」 「36. 」
He does look happy today. 「確かに今日彼はうれしそうだ」 ↑ 命令文で

② 疑問詞の強調 — 疑問詞の直後に (37.) などを置く : 「38. 」
What on earth are you doing? 「あなたはいいたい何をしているの?」

